

令和4年度 社会福祉法人愛隣園事業報告書

1. 法人の基本理念

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」

聖書 ルカによる福音書第10章27節

2. 総括

新型コロナウイルス感染症も3年を経過したが、特に今年度は夏の第7波、冬の第8波は、感染力の強いオミクロン株が主流となり、感染者が全国で爆発的に増加した。この時期、当法人においてもご多分に洩れずコロナ禍に見舞われ、ガリラヤ荘、ガリラヤ久米においてクラスターが発生するなど、これまで経験したことのないような事態に襲われたことは記憶に新しいところである。

幸いにも、コロナで亡くなられるといった最悪の事態は免れ、期間的にも2か月程度で何とか切り抜けることができたのは、職員一人一人の一方ならぬ尽力の賜物と感謝する次第である。

このようなコロナ禍の影響で、当然、今年度も引き続き、各種のイベントや行事については中止若しくは縮小を余儀なくされたところではあるが、それ以上に深刻であったのは、クラスターの発生による収入の大幅な減と支出の大幅な増に伴う収支の悪化であった。

収入については、ショートステイ、デイサービスなどの受入れを抑えたこと、また、支出については、危険手当の支給、帰宅困難者への宿泊費の助成、検査キットや衛生用品等消耗品の購入等々があり、さらにその上に電気代の高騰などが重なり、結果、これまでにない赤字額を計上することとなった。

こういった厳しい状況の中ではあったが、新たな取組みとしては、法人全体の初任者研修の実施、広報誌の発行、また、11月には当法人初の技能実習生4名の受け入れ行ったほか、コロナ後を見据えたデジタル化の推進など業務の効率化についての具体的な検討も始めた。

その他、育児・介護休業法の改正に伴う産後パパ育休の導入、処遇改善加算の支給方法の見直し、非正規職員の社会保険加入条件の変更に伴う適用の拡大などを行うとともに、昨今特に注目を浴びているジョブ型雇用の問題や賃金制度の在り方などについても関心を寄せ、これからの人手不足の時代に対応した多様な働き方はどうあるべきかといったことなどについて当法人内で研究を始めたところでもある。

なお、公益的取組の拠点として設置した地域共生センターについては、コロナの影響で本格的な活動はできなかったものの、ガリラヤ荘での「おげんきですか」の発行や「ほっこり喫茶」の営業、また、久米においての第1回目の「ふらりカフェ」の開催などを実施し、少しずつ実績を積み重ねきた。

前述のとおり今年度の収支状況は大変厳しいものであったが、その状況を見ると、愛隣こども園については、対前年度収入は16万1千円増、支出は対前年度74万2千円の増であったが、ガリラヤ荘ではコロナの影響をもろに受け、収入は対前年度3255万円の大幅減、一方支出は対前年度2707万円の大幅増となり、当期資金収支差額は、対前年度5578万円大幅減の▲1667万円となった。また、ガリラヤ久米についても、収入が対前年度614万円の増となるものの支出は対前年度1824万円の増となり、当期資金収支差額は▲3064万円で、法人全体では当期資金収支差額が対前年度7181万円大幅減の▲5410万円というこれまでにない大変厳しい結果となった。

このように今年度の決算を見るとコロナ禍の影響がいかに大きかったがよくわかるが、ただ、今回のコロナ禍を経て浮き彫りになってきた課題、あるいは潮目が変わったという言い方が正しいのかもしれないが、大きく時代の潮流が変化し始めたというのもまた事実として認識する必要がある。

一つは、令和4年の出生数が、統計開始以来初めて80万人を割り込んだということ。少子化は、将来の働き手の減少をもたらす由々しき事態であり、かつて無尽蔵と考えられていた人手というものに限りがあるという現実が目に見えてきているということ。

二つ目は、ウクライナ侵攻をきっかけに電気料金をはじめ、食品などが幅広く値上がりしているということ、また、これまでずっと上昇しなかった賃金も上がりだしたということ。

三つ目は、こういった状況の中にあって、個々の労働者が生み出す付加価値である「労働生産性」を向上させることや女性の働き方の見直しの重要性が大きく取り上げられだしたということ。

一方、当法人にあっては、コロナ禍によって浮き彫りになった課題は、業務の効率化・生産性の向上、コスト削減、そして利用者の獲得などである。どれもが、これまでのやり方が通用しないということであり、次年度以降これらの課題にどう対応していくかが、当法人の経営の行く末を左右する極めて重要な課題であると考えている。

「起こりえない、起こってほしくない未来に対する具体的な対処を考えることも、これからは、一層重要になる」と言った人がいるが、まさに、コロナ禍は、起こりえない、起こってほしくないことであったが、現実には起こったわけである。こういう事態がこれからもいつ起こるか分からないということを肝に銘じつつ、厳しい現実を直視しながら、痛みを伴う改革であっても敢えて取り組んで行くことが当法人経営の安定化につながる唯一の道であると確信している。

3. 事業の概要

【沿革】

- ・1930年（昭和5年） 松山市神田町に三津キリスト教会附属「愛隣保育園」開設
- ・1967年（昭和42年）8月 社会福祉法人「愛隣保育園」の法人認可
- ・1972年（昭和47年）11月 社会福祉法人「愛隣園」と名称変更
- ・1973年（昭和48年）4月 現東温市松瀬川に特別養護老人ホーム「ガリラヤ荘」（定員50名）開設
- ・1977年（昭和52年）4月 特別養護老人ホーム「ガリラヤ荘」増設（定員80名）
- ・2000年（平成12年）4月 「ガリラヤ荘」介護老人福祉施設の指定
- ・2008年（平成20年）11月 「ガリラヤ荘」東温市南方1766番地1へ新築移転
- ・2016年（平成28年）4月 「愛隣保育園」松山市三津三丁目6番30号へ新築移転
- ・2017年（平成29年）4月 「愛隣保育園」幼保連携型認定こども園移行により「愛隣こども園」に名称変更
- ・2017年（平成29年）4月 松山市久米窪田町667番地1に高齢者総合福祉施設「ガリラヤ久米」開設

【事業】

事業所名	施設長	所在地	定員等
愛隣こども園	羽藤美知子	松山市三津三丁目6番30号	66名
ガリラヤ荘	高橋 雅志	東温市南方1766-1	特養80名、ショートステイ20名 デイサービス35名、その他居宅介護 支援事業所、在宅介護支援センター、 訪問介護を運営

ガリラヤ久米	佐々木 忍	松山市久米窪田町 667-1	特養 29 名、ショートステイ 10 名、グループホーム 18 名、介護付有料 35 名、デイサービス 18 名、その他居宅介護支援事業所を運営
--------	-------	----------------	--

4. 理事会、評議員会等の開催

(1) 役員・評議員等

【役員：理事 6 名、監事 2 名】

理事長	佐々木信也	理 事	高橋 雅志
理 事	佐々木美穂	監 事	和田 政也
理 事	長谷川 寿	監 事	川中 国和
理 事	西川 潤子		
理 事	羽藤美知子		

【評議員 7 名】

評議員	田坂 信一	評議員	乗松 健二
評議員	二宮 秀生	評議員	杉野 典子
評議員	野村 忠秀	評議員	丹 紀代
評議員	別府 頼房		

【評議員選任委員】

評議員選任委員	形上 哲也	評議員選任委員	砂子 治幸
評議員選任委員	西山 裕一		
評議員選任委員	和田 政也		
評議員選任委員	小原 伸広		

(2) 理事会

開催年月日	出席者数		議 案
	理事	監事	
令和 4 年度 第 1 回理事会 6 月 14 日	6 名	2 名	【決議事項】 第 1 号議案 令和 3 年度事業報告について 第 2 号議案 令和 3 年度計算書類（決算報告）について -報告事項- 令和 3 年度監事監査報告について 第 3 号議案 苦情解決規程及びこども園運営規程の一部改正について 第 4 号議案 ガリラヤ荘のマルチエアコン及び特殊浴槽の更新について 第 5 号議案 定時評議員会の日程及び議案について 【報告事項】 現況報告（本部、こども園、ガリラヤ荘、ガリラヤ久米）

令和4年度 第2回理事会 9月7日	6名	0名	【決議事項】 第1号議案 ガリラヤ荘特殊浴槽の更新に係る工事請負契約について 第2号議案 育児・介護休業に関する規定の改正について 第3号議案 介護職員処遇改善加算制度及び介護職員処遇改善支援補助金制度の取扱いに関する規定について
令和4年度 第3回理事会 1月5日	6名	2名	【決議事項】 第1号議案 令和4年度第1次補正予算（案）について 第2号議案 旅費規程及び準職員就業規則の一部改正について 第3号議案 ガリラヤ荘積立金の取崩及び本部への移管について 第4号議案 令和4年度第2回評議員会の日程及び議案について －報告事項－ 1. 新型コロナウイルス感染症対策について 2. 理事長の職務執行状況について 3. こども園指導監査結果について 4. 「地域共生センターあいりん」整備検討委員会の検討結果について 5. 新型コロナウイルス感染症に伴う危険手当及び特別休暇制度について 6. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和4年度 第4回理事会 3月14日	6名	1名	【決議事項】 第1号議案 令和4年度第2次補正予算（案）について 第2号議案 令和5年度理事長報酬（案）について 第3号議案 令和5年度事業計画（案）について 第4号議案 令和5年度当初予算（案）について 第5号議案 「私傷病休職に関する取扱い規程（案）」の制定について 第6号議案 「給与規程（高齢者部門及びこども園）」の一部改正について 第7号議案 「愛隣こども園給与規程・運営規程」の一部改正について 第8号議案 「マイナンバー等取扱い規程（案）」の制定について 第9号議案 「経理規程」の一部改正について 第10号議案 「運営規程」の一部改正について 第11号議案 令和4年度第3回評議員会の日程及び議案について

			－報告事項－ 1. 理事長の職務執行状況について 2. 法人指導監査結果について 3. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和4年度 第5回理事会 3月31日	6名	1名	【決議事項】 第1号議案 地域共生センターの整備について

(3) 評議員会

開催年月日	出席者数		議 案
	評議員	役 員	
令和4年度 定時評議員会 6月28日	5名	理事 6名 監事 2名	【報告事項】 令和3年度事業報告 【決議事項】 第1号議案 令和3年度計算書類等（決算報告）の承認について 報告事項 令和3年度監事監査報告について 【報告事項等】 1. 愛隣こども園令和3年度指導監査結果について 2. ガリラヤ荘のマルチエアコン及び特殊浴槽の更新について 3. 電気料金について 4. 現況報告（本部・愛隣こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和4年度 第2回評議員会 1月11日	7名	理事 6名 監事 2名	【決議事項】 第1号議案 令和4年度第1次補正予算（案）について 【報告事項等】 1. 新型コロナウイルス感染症対策について 2. 愛隣こども園令和4年度指導監査結果について 3. 「地域共生センターあいりん」整備検討委員会の検討結果について 4. ガリラヤ荘の特殊浴槽の更新について 5. ガリラヤ荘積立金の取崩及び本部への移管について 6. 現況報告（本部・愛隣こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和4年度 第3回評議員会 3月24日	7名	理事 6名 監事 1名	【決議事項】 第1号議案 令和4年度第2次補予算（案）について 第2号議案 令和5年度理事長報酬（案）について 第3号議案 令和5年度事業計画（案）について 第4号議案 令和5年度当初予算（案）について 【報告事項】 1. 法人指導監査結果について 2. 現況報告（本部・愛隣こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）

5. 監事監査

令和4年6月3日（月）に、和田政也及び川中国和の両監事により令和3年度事業報告及び当該年度に係る計算書類関係に基づき業務及び財務の状況について監査が実施された。

6. 本部事務局体制

局長、次長、総務企画担当主任1名、会計担当主任1名、事務職員1名の計5名体制で、法人運営のほか財務会計、人事労務、企画等の事務を処理。

- ・法人運営：理事会、評議員会の運営等
- ・財務会計：決算、予算管理、財産管理、経理等
- ・人事労務：新卒採用、人事管理、労務諸規程の制定・変更等、研修、勤怠管理、給与支給等
- ・経営企画：法人全体及び各事業所の経営分析、中期経営計画の策定、その他各種企画立案

7. 事業収支及び資産の状況

【資金収支計算書】

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
① 事業活動収入	1,154,821	1,141,330	1,169,878	1,143,935
② 事業活動支出	1,035,421	1,054,658	1,078,176	1,129,457
③ 事業活動資金収支差額	119,400	86,672	91,702	14,478
④ 収支差額率(③/①)	10.3%	7.6%	7.8%	1.3%
⑤ 施設整備等資金収支差額	▲39,289	▲54,563	▲65,830	▲83,529
⑥ その他の活動資金収支差額	▲17,160	▲11,234	▲8,166	14,946
⑦ 当期資金収支差額	62,949	20,874	17,706	▲54,105
⑧ 前期末支払資金残高	559,362	622,397	643,271	660,978
⑨ 当期末支払資金残高	622,397	643,271	660,978	606,873

【事業活動計算書】

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
① 介護保険事業収益	1,005,541	998,289	1,035,013	1,008,564
② 保育事業収益	142,182	139,003	131,206	131,414
③ その他	965	251	60	542
④ サービス活動収益計	1,148,688	1,137,543	1,166,279	1,140,520
⑤ 人件費	764,297	790,005	806,204	808,310
⑥ 事業費	156,972	159,578	161,239	177,806
⑦ 事務費	100,447	96,282	103,557	111,433
⑧ 減価償却費	109,482	110,207	108,812	105,943
⑨ 国庫補助金等積立金取崩額	▲28,210	▲36,983	▲28,507	▲27,788
⑩ サービス活動費用計	1,102,988	1,119,089	1,151,305	1,175,704
⑪ サービス活動増減差額	45,700	18,454	14,974	▲35,184
⑫ サービス活動外収益計	6,879	4,034	4,888	5,103
⑬ サービス活動外費用計	13,609	13,577	13,435	12,983
⑭ サービス活動外増減差額	▲6,730	▲9,543	▲8,547	▲7,880
⑮ 経常増減差額(⑪+⑭)	38,970	8,911	6,427	▲43,064

⑯ 経常増減差額率 (⑮/④)	3.4%	0.8%	0.5%	0.03%
⑰ 特別増減差額	▲39	413	▲949	4,869
⑱ 前期繰越活動増減差額	445,026	470,040	471,865	476,342
⑲ 当期末繰越活動増減差額	483,956	479,365	477,342	438,148
⑳ 次期繰越活動増減差額	469,956	471,865	476,342	456,148

【資産・負債の状況】

(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
① 流動資産	706,137	688,140	709,032	667,976
② 固定資産	2,262,477	2,171,094	2,072,743	1,976,825
③ 資産合計	2,968,614	2,859,234	2,781,775	2,644,801
④ 流動負債	224,802	192,699	196,968	185,794
⑤ 固定負債	1,768,260	1,690,900	1,616,067	1,540,337
⑥ 負債合計	1,993,062	1,883,599	1,813,035	1,726,131
⑦ 純資産	975,552	975,635	968,740	918,669
⑧ 流動比率 (①/④)	314.1%	357.1%	360.0%	359.5%
⑨ 純資産比率 (⑦/③)	32.9%	34.1%	34.8%	34.7%

8. 法人借入金状況

(単位：千円)

事業所	借入先	利率	期首残高	当期借入額	当期償還額	期末残高
愛隣こども園	福祉医療機構	0.75%	98,264	0	4,152	94,112
	福祉医療機構	0.05%	23,856	0	1,008	22,848
	伊予銀行	0.65%	27,490	0	1,140	26,350
	小 計		149,610	0	6,300	143,310
ガリラヤ荘	福祉医療機構	1.80%	36,820	0	5,260	31,560
	伊予銀行	0.40%	414,920	0	24,768	390,152
	愛媛銀行	0.40%	59,510	0	3,540	55,970
	小 計		511,250	0	33,568	477,682
ガリラヤ久米 (有料含む)	福祉医療機構	0.95%	429,900	0	17,196	412,704
	愛媛銀行	0.45%	563,000	0	22,200	540,800
	小 計		992,900	0	39,396	953,504
合 計			1,653,760	0	79,264	1,574,496

9. 主な修繕及び備品等の購入状況

○主な修繕

(単位：円)

区 分	内 容	金 額
愛隣こども園	第2駐車場ミラー設置費用	220,000
	ピアノ調律、掛け時計修理費他	300,059

ガリラヤ荘	エアコン修理費	672,210
	電気温水器修理、本体入替費用	431,046
	ボイラー、床暖、給水関係修繕費	548,900
	エレベーター機能維持修理費	137,500
	その他厨房関係備品修理他	445,540
ガリラヤ久米 (有料含む)	特浴、介護センサー関係修理	223,300
	居室トイレ修理費	63,800
	洗濯機修理、ピアノ調律、インカム修理他	172,436
合 計		3,214,791

○備品等購入状況（固定資産）

区 分	内 容	金 額
愛隣こども園	ホンダ発電機エネポ1台	115,170
	遊具（トンネルマット、プレイマッソー式）	210,375
	絵本棚	220,000
ガリラヤ荘	キューブミスター（噴霧器）1台	210,375
	小型介護浴槽、昇降式介護浴槽	23,697,800
ガリラヤ久米 (有料含む)	キューブミスター（噴霧器）1台	213,675
	ノート型パソコン	170,017
法 人 本 部	財務会計ソフト使用権	210,100
合 計		25,047,512

10. 利用者の状況

施 設・事業名		定 員	年間延べ利用者数	1日平均利用者数
愛隣こども園		66	935	
ガリラヤ荘	特養入所	80	24,789	74.2
	ショートステイ	20	4,454	13.3
	デイサービス	35	6,580	23.2
ガリラヤ久米	特養入所	29	10,100	27.7
	ショートステイ	10	3,017	8.3
	デイサービス	18	4,114	13.3
	グループホーム	18	6,451	17.7
	介護付有料	35	11,205	30.71

11. 職員の状況（令和5年3月31日現在）

（1）職員配置

区 分	本 部	愛隣こども園	ガリラヤ荘	ガリラヤ久米	合 計
正規職員	3	15	72	58	148
準職員	2	0	40	23	65
非常勤/パート		10	0	0	10
合 計	5	25	112	81	223

(2) 職員構成（職種、事業所別）

【本部事務局】

職 種	局 長	次 長	事務員			合 計
正職員			3			3
準職員	1	1				2
合 計	1	1	3			5

【愛隣こども園】

職 種	園 長	保育教諭等	栄養士	調理員	事務員	合 計
正職員	1	12	0	2	0	15
非常勤・パート		7	0	2	1	10
合 計	1	19	0	4	1	25

【ガリラヤ荘】

職 種	管理部門	特養・SS	デイサービス	訪問介護	居宅・在宅	合 計
施設長	1					1
生活相談員		2	1(兼務1)			3(兼務1)
介護職員		61	10(兼務1)	9		80(兼務1)
看護職員		9	4			13
主任介護支援専門員					1	1
介護支援専門員					4	4
管理栄養士		1				1
言語聴覚士		1				1
事務職員	3					3
用務員等	5					5
合 計	9	74	15	9	5	112

【ガリラヤ久米】

職 種	管理部門	特養・SS	デイサービス	グループホーム	居 宅	有 料	合 計
施設長	1						1
生活相談員		1	1(兼務1)			1	3(兼務1)
介護職員		24	4(兼務1)	13		15	56(兼務1)
看護職員		4	2			2	8
主任介護支援専門員					1		1
介護支援専門員		1		2	1		4
管理栄養士		1					1
事務職員	2						2
用務員等	4					1	5
合 計	7	31	7	15	2	19	81

(3) 離職率(1年間の退職者数を年度当初の在籍者数で割ったもの)

区 分	当 初	退職者数	離職率	3 年度離職率	2 年度離職率
愛隣こども園	27	2	7.4%	7.6%	3.8%
ガリラヤ荘	117	7	6.0%	5.9%	5.9%
ガリラヤ久米	84	16	19.0%	9.7%	10.2%
本 部	4	1	25.0%	0.0%	0.0%
法人合計	232	26	11.2%	7.4%	7.2%

※令和4年度の場合、法人全体では11.2%となっており、前年度と比較すると3.8ポイント上昇。

12. 実習生及び外国人受け入れ状況

(1) 実習生の受け入れ

○愛隣こども園

- ・ 保育所実習：東雲女子大学1名の実習生の受け入れ
- ・ 小児看護学実習：人間環境大学から2回に分け10名の実習生を受け入れ
- ・ 体験学習：三津浜中学校1名、高浜中学校2名を体験学習で受け入れ

○ガリラヤ荘

- ・ 介護実習：河原医療福祉専門学校、聖カタリナ大学、東温高等学校から実習生を受け入れ
- ・ 看護実習：愛媛大学医学部、愛媛県立医療技術大学、河原医療大学から実習生を受け入れ
- ・ 体験学習：川内中学校から体験学習で受け入れ

○ガリラヤ久米

- ・ 看護実習：河原医療大学及び愛媛県立医療技術大学の看護学科から実習生を受け入れ
- ・ 体験学習：愛媛県立東温高等学校（普通科）の実習生を受け入れ

(2) 外国人の受け入れ

- ・ 令和4年度の外国人の受け入れについては、アルバイトとして受け入れていた留学生の中国籍の男性1名は卒業に伴い正規の介護職員として採用。留学生からの受け入れは、そのほかベトナム籍の女性1名を雇用している。なお、留学生のネパール国籍の女性1名はアルバイトとして雇用しており、5年度には正規職員として雇用する予定。

また、河原学園の卒業生である中国籍の男性を1名採用しているほか、4年11月にはフィリピンからの技能実習生として4名の女性を採用。結果、外国人の受け入れは、4か国からの計8名となっている。

- ・ なお、当法人では、令和元年度に河原医療福祉専門学校と提携して、介護を学ぶ留学生を対象に生活費及び学費の援助を目的とした奨学金貸与制度を設けたところであり、卒業後は当法人の介護施設に勤務することとしている。

※奨学金貸与制度の内容

2年間の在学中、毎月37,500円(2年間で900,000円)を貸与、卒業後は、介護福祉士の資格を取得し当法人に5年間勤務した場合、返済は免除

- ・ さらに、技能実習生の受け入れにあたって、各種手続き等を担う監理団体については、フィリピンからの受け入れを専門としている「日比介護国際協同組合(平成29年11月設立)」令和元年10月に加入しているところである。

13. 職員研修

各事業所では、職員の保育や介護技術のスキルアップを目指して外部研修に積極的に参加するほか内部で以下のような専門研修をきめ細かく実施しているほか、福祉を取り巻く厳しい環境の変化に対応していくためには、これらの専門研修に加えて、組織運営のマネジメントスキル向上を目指した階層別研修などに取り組むこととしていたが、今年度もコロナの影響で中止若しくは縮小を余儀なくされたところである。しかし、そういった中であって以下のような研修を実施。

○法人全体（階層別研修）

新規採用職員等を対象に、仕事に取り組む心構えなどを中心に初任者研修を実施

○愛隣こども園

施設外研修に参加。特に、新入職員、中堅保育教諭・主幹保育教諭、園長研修など階層別研修を、対面とオンラインで実施した。

○ガリラヤ荘及びガリラヤ久米

施設内・外研修への参加や他施設への見学を行い、介護サービスの質の向上を行った。

具体的には以下のとおり実施。また、その他各種外部研修にも適宜参加した。

- ・ 新人職員研修（外部講師を招き、新卒等の職員を対象に初任者研修実施他）
- ・ 身体拘束虐待防止研修・リスクマネジメント研修・感染症対策研修・看取り介護研修
- ・ トータルケア勉強会・接遇、守秘義務研修 等

※なお、これらの研修は、コロナの関係で一部書面開催、またはWEBでの開催となった。

14. 「地域共生センターあいりん」の活動

○ガリラヤ久米における活動内容

- ・ 第1回ふりりカフェ : 10月23日 参加者14名 スタッフ10名
- ・ ミニふりりカフェ : 11月17日 参加者7名 スタッフ3名

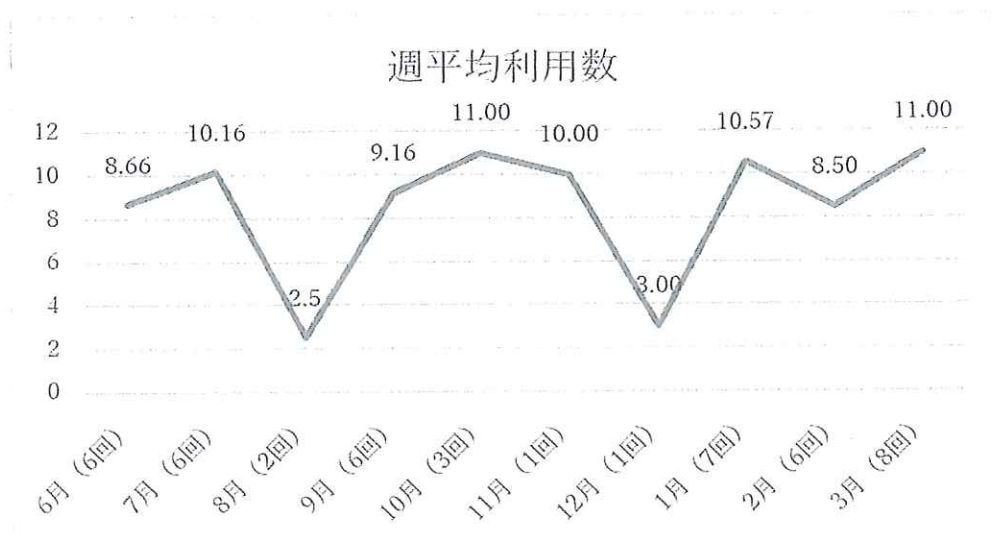
○ガリラヤ荘における活動内容

- ① おとこ塾の再開 : 4月16日（足台つくりと流木アートの作成） 参加者5名
11月12日（木エアート）
- ② 機関紙の発行 : 第1号発行（5月）「おげんきですか？大丈夫ですか？不安ではありませんか？」
第2号発行（8月）「防災特集 誰一人悲しい思いをさせない地域をめざしましょう！！」
第3号発行（11月）「風邪・コロナウイルス・インフルエンザなんかには負けないぞ！」
第4号発行（2月）「ラブユー東温～素敵な人 楽しい場所 おいしい食べ物～」

③ ほっこり喫茶

10月の後半から12月までは、コロナ感染のために、ほとんど開店できなかったが、1月からは、コロナも落ち着き通常に開店することができた。ほっこり喫茶の存在はコンスタントに定着してきており、「東温市で一番安い喫茶店」を目標に料金100円で運営。（薄利多売）
今では、常連さんもできて開店する日を皆さん楽しみにしている様子。

令和4年6月～5年3月までの利用状況



15. 新型コロナウイルス対策

○「新型コロナウイルス緊急対策本部」の設置

令和2年4月17日付で当法人内に「新型コロナウイルス緊急対策本部」を設置し、感染状況に応じた対応方針をその都度協議しながら決定し、職員に周知徹底を図った。

① メンバー：理事長、本部事務局長、各施設長及び統括部長

② 役割：情報の収集及び共有

新型コロナウイルス対策に関する基本的対応方針の決定
万が一施設内で発生した場合の対応策の検討 など

③ 職員への周知

県外移動の制限や外出の自粛など対策本部で決定した取り組み事項については、逐一、職員に対してはお知らせという形で周知してきたところであり、お知らせは令和2年度が計16回、令和3年度が計7回、令和4年度が計3回の合計26回にわたっている。

そのほか、利用者やご家族の皆さんには、外出制限の要請や面会についてはオンラインでの実施などについて協力を依頼した。

○各事業所の対応状況

- ・ こども園 : 7月以降8月、9月、12月と園児及び職員の間で新型コロナ感染症が多発し、土日を含む3日間、4日間のクラス閉鎖なども実施。8月は園児・職員合わせて13名、9月が21名、12月が18名と日々コロナ対策に追われる日が続き、クリスマス会なども延期という措置を取ったりしたが、保護者の方に迷惑をかけることがなかったのは幸いであった。
- ・ ガリラヤ荘 : 10月と11月にクラスターが発生。レッドゾーンの設定による立ち入り制限や、ショート、デイサービスなどの利用の制限・縮小などを実施。クラスターの際には、利用者から職員に次々と感染が広がり、人手の確保に苦慮したこともあったが、他の事業所からの応援等で何とか切り抜けたところである。ただ幸いであったことは、利用者の方も数多くコロナに感染し、施設内での療養や入院といったこともあったが、このコロナが原因で亡くなられた方がいなかったことである。
- ・ ガリラヤ久米 : 11月より1月にかけてクラスターが発生。しかしながら、感染者数はそれぞれ

職員・入居者6名ずつであり、最小限の感染者数でおさまったことは幸いであつた。また、クラスター発生に伴い、感染対策を強化したところではあるが、サービスの利用を制限するなどの措置を取るまでには至らなかったことは、職員個々の働きも大きかったものと考えている。

※令和4年度感染者数

事業所名	職 員	利用者	計
愛隣こども園	14	32	46
ガリラヤ荘	41	25	66
ガリラヤ久米	23	10	33
計	78	67	145

※クラスター発生状況

事業所名	対策期間	感染者数		
		職 員	利用者	計
ガリラヤ荘	10/30～11/ 9	8	3	11
〃	12/ 1～12/18	12	18	30
ガリラヤ久米	11/28～12/ 5	5	1	6
〃	12/25～ 1/10	2	4	6
〃	1/14～ 1/28	1	5	6

○危険手当の支給

クラスター発生時においてレッドゾーン内に勤務した職員を対象に危険手当を支給。

・手当額 1日5,000円

※支給状況

対象者数 : 574名

延勤務日数 : 78日

支給総額 : 2,870,000円

※その他、施設内で感染した職員については、休業期間中は特別休暇とし、給与は全額支給することとした。

○アパートの借り上げ、宿泊費の助成

感染状況によって帰宅が困難と認められる職員に対しては、アパートを借り上げ、一時そこを仮宿舎として起居させるとともに、ホテルなども斡旋し、その経費は法人が負担。

16. 会議等の開催

(1) 幹部会(理事長、事務局長、園長、施設長、地域共生センター長、事務局次長)

開催日	議 事 内 容
第1回 4月7日	1. 4月の行事予定について 2. 令和4年度 of 取組みについて 3. ウクライナ緊急募金について 4. コロナ関係について
第2回 5月6日	1. 5月の行事予定について 2. コロナ対策について 3. 危機管理について

	4. 研修について 5. 積立金について 6. 令和4年度経営戦略委員会のテーマについて 7. その他（互助会、広報委員会の設置等）
第3回 6月6日	1. 6月の行事予定について 2. 電力料金について 3. ジョブ型の雇用について 4. その他（危機管理委員会の開催、福祉医療機構への報告関係等） 5.
第4回 7月6日	1. 7月の行事予定について 2. 手持ち資金について 3. 業務効率化進め方について（眠りセンサーの導入等） 4. コロナ対策について 5. 互助会活動について 6. 地域共生センターの活動について 7. その他（実習生受け入れ、研修日程等）
第5回 9月7日	1. 9月の行事予定について 2. 7月分までの執行状況について 3. パワハラ等諸問題について 4. 介護報酬改定の行方について 5. 育児・介護休業法及び雇用保険法の改正について 6. 労務管理について（フレックスタイム制、パート等社会保険加入条件の変更等） 7. 苦情処理委員会書面開催の結果について 8. 愛媛県最低賃金額改正に伴う対応について 9. コロナ対策について 10. デジタル化について
第6回 10月5日	1. 10月の行事予定について 2. 8月分までの執行状況について 3. 手持ち資金の活用策について 4. 医療・福祉版応援金の申請について 5. デジタル化について（勤怠管理、介護記録ソフト） 6. 半日公休及び冬季休暇の 7. 賃金体系の見直しの検討について 8. 広報誌について 9. 研修について（BCP、初任者フォローアップ研修、ネクストリーダー研修） 10. その他（コロナ対策、技能実習生、今後のスケジュール等）

第 7 回 11 月 2 日	1. 11 月の行事予定について 2. コロナ対策について 3. 9 月分までの執行状況について 4. 人事労務関係のデジタル化について 5. 地域共生センターについて 6. 処遇改善加算についての対応方針 7. 外国人雇用について 8. 広報誌について 9. 今後のスケジュールについて 10. その他（本部事務局事務分掌表）
第 8 回 12 月 26 日	1. 1 月の行事予定について 2. 処遇改善加算等について 3. 資金管理について
第 9 回 2 月 1 日	1. 2 月及び 3 月の行事予定について 2. 1 月分までの執行状況について 3. 処遇改善加算についての対応方針 4. コロナ関連補助金申請について 5. 電気料金について 6. 令和 5 年度の重点取組事項について 7. その他（泉田照雄氏との契約更新）
第 10 回 3 月 1 日	1. 3 月の行事予定について 2. コロナ補助金の申請状況について 3. 太陽光発電について 4. 令和 5 年度人事異動について 5. その他（広報委員会、入職式等）

（２）経営会議（理事長、理事、事務局長、園長、施設長、部長、事務局次長）

開催日	議 事 内 容
第 1 回 4 月 21 日	1. 令和 4 年度高齢者部門人事異動等について 2. 令和 4 年度取組み方針について 3. 委員会の開催について ・危機管理委員会 ・衛生委員会（ガリラヤ荘、ガリラヤ久米合同） 4. 広報誌の発行について 5. 令和 4 年度ガリラヤ荘修繕計画について 6. 令和 4 年度地域共生センターの取組み方針について 7. 今後のスケジュールについて 8. コロナ対策について 9. その他（BCP 最終版の作成）
第 2 回 6 月 2 日	1. 令和 3 年度決算について 2. 研修について（BCP、管理職研修、初任者フォローアップ研修） 3. 電気料金について

	4. 外国人受け入れについて（留学生、技能実習生） 5. 令和4年度ガリラヤ荘修繕計画について（特浴関係、マルチエアコン） 6. 地域共生センターの取組みについて 7. コロナ対策について 8. その他（3年度法人事業報告書）
第3回 11月8日	I 講演 テーマ： 今後の賃金体系のあり方について 講師： 社会保険労務士法人のぞみプランニング 代表社員 上田 恭子 先生 II 議事 1. デジタル化について 2. 令和5年度外国人受け入れについて 3. コロナ対策について 4. その他（各種会議の日程）
第4回 12月26日	1. 4月～11月までの執行状況について 2. 令和4年度決算見込み及び第1次補正予算について 3. コロナ対策について 4. 規程の改正について ・ 旅費規程（高速道路の利用料金） ・ 準職員就業規則（準Ⅰ冬休） 5. 令和5年度の方針 ・ デジタル化について ・ ガリラヤ荘修繕関係について ・ 外国人雇用について ・ 賃金体系の見直しについて ・ 地域共生センターについて 等
第5回 3月1日	1. 令和4年度第2次補正予算（案）について 2. 令和5年度事業計画（案）及び当初予算（案）について 3. 令和5年度処遇改善加算等について 4. コロナ対策について 5. 「私傷病休職に関する取扱い規程（案）」の制定及び「こども園給与規程規則」等の改正について

（4）事務局会議（事務局長、次長、事務職員）

開催日	議 事 内 容
第1回 6月17日	1. 本部事務局からの伝達事項 2. 人事・労務関係事務において留意すること 3. 会計についての注意点 4. その他（意見交換）

2022年度(令和4年度)事業報告

愛隣こども園

1. 保育・教育の目的

キリスト教主義の保育・教育理念、方針、目標に基づき、松山市より委託された乳幼児を下記の法において保育・教育をおこなった。

記：児童福祉法第39条を目的とし、児童福祉施設最低基準
第5章第32条より第36条を遵守した。

理念 多くの賜物を与えられて誕生した子どもたちを、ひとりひとり大切にみつめつつ保育及び教育
することで他者と共に生きることのできる子どもに育てる。

「自分を愛するように あなたの隣人を愛しなさい」(聖書のことばから)

方針 1「地域の人々と共に」 過疎化が進み高齢者が多くなりました。地域の人々と共に交流し、
保護者の家庭を含めて共生する使命があります。

2「基本的習慣を身につけ養う」 他者と心をつなぐ道です。それは他者の人格を尊び、
人権を大切にする心を育てることでもあります。

目標 1. 基本的生活習慣を身につけよう。
2. 他の子どもとともに生きる子どもになろう。
3. 自分を豊かに表現できる子どもになろう。
4. 主体的に活動できる子どもになろう。

2. 児童数

2022年度は、定員66名に対して75名でスタートし、最終81名で終える。

保育卒の定員(60名)が恒常的に超過すると(120%を5年間)減算対象になり、2022年度はその
対象年度にあたることから年度当初より途中入園を計画的に行った。(119.8%)

月	0歳児 3号	1歳児 3号	2歳児 3・2号	3歳児 2号 1号	4歳児 2号 1号	5歳児 2号 1号	合計 3・2号 1号	総合計	備 考
4月	3	9	14	11 2	16 2	16 2	69 6	75	
5月	4	9	14	11 2	16 2	16 2	70 6	76	0歳児1名 入園
6月 ┌ 8月	5	9	14	11 2	16 2	16 2	71 6	77	0歳児1名 入園
9月 ┌ 10月	6	9	14	11 2	16 2	16 2	72 6	78	0歳児1名 入園
11月 ┌ 2月	7	9	14	11 2	16 2	16 2	73 6	79	0歳児1名 入園
3月	9	9	14	11 2	16 2	16 2	75 6	81	0歳児2名 入園

2023年3月31日現在

3. 職員数

職員の状況は年度途中に2名退職や、2名産休・育休を取るものがいたが、育休復帰の職員も2名
いたこと、またフリーの保育教諭の職員もいたので、途中採用をしなくても運営ができた。年度末に
13年の経験者と入職1年目の職員の2名が退職する。

(参考…2023年度 正規職員1名・臨時職員2名・パート職員1名補充)

月	園長	保育教諭			調理員			事務員	合計			備 考
		正規	非常勤	パート	正規	非常勤	パート	非常勤	正規	非常勤	パート	
4月 6月	1	21			4			1	27			今年度はフリーの主幹教諭1名、 担任を受け持っている主幹教諭1名を配置
		13	6	2	2	1	1	1	16	8	3	
7月 12月	1	20			4			1	26			正規保育教諭1名6月末退職 (正規保育教諭1名9月育休復帰) (正規保育教諭1名11月産休) (正規保育教諭1名12月産休) (臨時保育教諭1名12月育休復帰)
		12	6	2	2	1	1	1	15	8	3	
1月 2月	1	20			4			1	26			臨時保育教諭1名1月より正規へ変更
		13	5	2	2	1	1	1	16	7	3	
3月	1	19			4			1	25			正規保育教諭1名2月退職
		12	5	2	2	1	1	1	15	7	3	

2023年3月31日現在

4. 保育・教育内容について

コロナ感染症拡大防止に対応した保育・教育は3年目ということで職員たちも、衛生管理や玩具や室内の消毒を徹底したり、感染が拡大した時の活動内容など工夫して行うことができた。また、行事等も見通しをもって、変更したり、延期したりその時々で臨機応変に行うことができた。

クラス別保育が主になったができるだけ閉鎖的にならないよう心がけた。0歳児の途中入園は計画的に行ったので職員もその都度考えて配置でき、安定したクラス運営ができた。目標としていた個々と愛着関係も築くことができ、安心して生活することができた。他の年齢のクラスもそれぞれ目標に掲げていた保育・教育を概ね実践することができた。一人ひとりに丁寧に関わることを意識し、自分でやってみようという思いを大切に「できた」という喜びを共感するよう心がけた。また、以上児は友だちとの関わりを楽しんだり、協力し合うことも意識して働きかけることができた。外部講師による体操教室、英語教室は子どもたちも楽しみにし積極的に取り組むことができていた。その様子を参観してもらうことで保護者もより関心を示してもらえた。行事への取り組みもコロナ禍だからこそ考えたり見直すこともできた。特に大きく変えたことは、遊戯会と卒園式を別日にしたことだ。コロナ感染症の感染拡大前は同日に行い、卒園児を在園児やたくさんの保護者の方々に送っていただく形を30年以上とっていたが人数制限や時間短縮等を考えて別日にしたところ、メリットのほうが多くコロナ感染拡大に関係なく今後も別日にすることにした。職員の負担も行事を分けることで負担が減ったのも事実である。

5. 保護者との連携

連絡ノートや送迎時にお話ししたり、また個別に対応が必要なところは面談の時をもったりして保護者の思いを聞くようにした。家庭訪問は新入園児と今まで行けてなかった家庭を訪問し周囲や家庭の環境等の把握をしたり、家での様子を伺った。また、年長児は園で個別面談を行い小学校入学に向けての話等を行う。保護者からの相談や悩み等は都度時間を取り担任や主幹、必要な内容の時は園長が対応し保護者に寄り添うようにした。

特に注意を払ったのはコロナ感染症拡大のときの園の方針であり、基本は松山市の指示に従い対応した。出席停止の家庭や登園自粛の家庭には細目に連絡を入れたり保護者が感染した場合も困っていることはないか等聞き、把握したり支援したり心がけた。

行事的保育・教育活動

月 日	曜日	行 事 的 保 育 ・ 教 育 活 動 他	
4月2日	土	入園式	新型コロナ感染拡大防止のため人数制限、時間短縮、検温・消毒・換気等を徹底して行う。式は三津教会 森分望 牧師の祈りにより始める。理事長、園長挨拶、各組担任による園児の紹介、職員の出し物を行う。各クラスの集まりは中止する。保護者会の役員選出は年長児のクラスで行い、第一回の役員会は別日に行う。
5月12日	木	内科検診	医師 井上 哲志氏 15:00～16:30
5月13日	金	歯科検診	医師 道田 里美氏 10:00～12:00
5月14日	土	歓迎遠足	雨天のため中止（土曜日平常保育）
5月17日	火	とべ動物園遠足	大型バス2台を借りて全園児で行く
5月20日	金	芋苗付け	畑寺にある芋畑に年長児、職員4名参加 （虹のそらこども園・小規模保育事業所ひかり・あゆみ他合同）
6月6日 ↓ 6月17日	月 金	東雲女子大学 保育所実習 2年生 1名来園	
6月15日	水	花の日	午前中雨天のためこども園で花の日礼拝を行う。三津教会森分牧師、教会員7名の方々と園児、職員で賛美歌を歌い、牧師のお話、祈りの時を持つ。午後より、天気が回復したので、地域や公共の施設にお花を届ける。
6月18日	土	保育参観日	9:30～11:00 りす組(2歳児) きりん組(4歳児)
6月25日	土	保育参観日	9:30～11:00 ひよこ組(0・1歳児) うさぎ組(3歳児) くま組(5歳児)
7月7日 ↓ 7月8日	木 金	三津浜中学校2年生1名 職場体験（1名は欠席）	
7月27日	水	交通安全教室	
7月29日	金	年長児モンチッチ海岸海水浴	（くま組18名 引率者:職員…7名） （7月30日に予定していたが雨天の予報のため一日早める）
7月19日 8月2日 8月23日 8月30日	火	体操教室参観日	りす組 9:30～9:50 うさぎ組 9:50～10:20 きりん組 10:20～10:50 くま組 10:50～11:30
7月21日 7月28日 8月18日 8月25日		英語教室参観日	きりん組 10:00～10:40 くま組 10:45～11:30
8月4日	木	松山市指導監査	13:00～
8月8日	月	大洗高校マーチングバンド	コロナ感染症拡大のため中止
8月22日 ↓ 8月23日	月 火	高浜中学校2年生2名 職場体験	

月 日	曜日	行 事 的 保 育 ・ 教 育 活 動 他
9月17日	土	敬老参観日 コロナ感染症拡大のため中止
9月21日 }	水	人間環境大学小児看護学実習 3年生 5名来園 中止
9月22日	木	
10月14日	金	芋ほり 急遽決定したため職員3名のみ参加し他園とお芋を分ける。
10月22日	土	運 動 会 大可賀公園で人数制限・検温・消毒・座席指定等 コロナ感染症拡大防止の中、二部制で行う 一部 … 0.1.2.3歳児 → 9:00～10:00 家族参加人数126名 二部 … 4.5歳児 → 10:20～11:20 家族参加人数120名
11月5日	土	愛隣バザー 午前、午後の二部制 田村裕子氏による砂絵アート 親子で製作や買い物また遊びのコーナーを楽しむ (4,5歳児の手作りクッキー、職員の焼きたこ焼き、ポップコーン 給食室のホットドックの販売⇒収益は保護者会へ)
11月9日	水	歯科検診 医師 道田 里美氏 10:00～12:00
11月10日	木	内科検診 医師 井上 哲志氏 15:00～16:30
11月12日	土	親子遠足 藤山健康文化公園 (大型バス2台)
11月16日	水	アンパンマントロッコ列車遠足 くま組(5歳児)参加…他園と一緒に波方公園へ
11月17日	木	感 謝 祭 三津教会で森分牧師、教会員の方々と一緒に礼拝を守る。 家から持ち寄った果物・野菜をクラスに分かれてご近所や、公共施設に届ける。
1月14日	土	クリスマス祝会 12月24日に予定していたが、コロナ感染症拡大で延期 降誕劇とクリスマス礼拝をコロナ感染拡大防止のため 人数制限、 時間短縮、検温・消毒・換気を徹底して行う。 10:00～11:30 保護者参加者:106名
1月18日 }	水	人間環境大学小児看護学実習 3年生 5名来園
1月19日	木	
3月4日	土	遊戯会 9:15～12:00 保護者参加者(兄弟姉妹含む):111名
3月20日	月	くま組お別れ会 在園児が年長児を送る
3月22日	水	くま組お別れ遠足 北吉田公園 (くま組18名 引率者:職員…4名)
3月25日	土	卒園式 10:00～11:00 卒園児家族参加者:59名 新入園児面接 13:30～

※ 誕生会 … 毎月1回 (2022年度は、担当者が各クラスを回り、多人数で集まらないようにする)

※ お弁当給食 … 毎月1回 (家庭で用意していただいた弁当箱に給食を詰めて園内、園外で食べる)

※ 避難訓練 … 毎月1回(総合訓練2回) ※ 身体測定 … 毎月1回

6. 特別保育事業

- ①一時預かり事業 … 家庭で保育を受けることが困難となった乳児または幼児について、主に昼間、保育所や幼稚園等で一時的に子どもを保育する事業をいう。

一時預かり保育延人数(基本は月～金 8:30～17:00 土曜保育、延長保育は要相談)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	19	15	16	21	24	25	31	27	32	33	34	40	317
延人数	148	153	182	171	190	171	193	202	188	190	173	233	2194

参考:2021年度実人数合計:400人 延人数合計2278人

※前年度と比較すると実人数、延人数共に下回っている。理由としてコロナ感染症拡大でキャンセルが出たり、自粛をされる方、また感染した方もいた。また、2022年度は4月当初より発達が緩やかな子どもを預かったり、2月からは医療的ケア児ではないが難病指定のお子さんを預かったりと、今までにない理由で預かるケースも増えていると感じる。移転したときからこの事業を開始したが、その当時はリフレッシュや集団生活を始めるまでに慣れておきたい等の理由で預ける方が多かったが、ここ数年は仕事をしている方、認定は受けているがどこにも入園できなかった方の利用が殆どになっている。できるだけ平等に利用していただきたいと思っているが利用調整が難しいのが現状である。

※前年度より延人数等下回っているが補助金額は同じであった。年齢の低い子が使えるトンネルや難病のお子さん用にマット等を購入する。

- ②延長保育事業 … 延長保育とは保育園等が提供している従来の預かり時間の範囲を延長して行う保育サービスのこと。

延長保育事業延人数(基本は月～金 18:00～19:00 の利用者)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
未満児	39	30	59	43	33	38	42	50	58	53	58	55	558
3歳児	34	18	33	21	21	20	20	29	39	38	31	34	338
4歳児以上	57	52	57	50	31	52	63	63	59	67	66	68	685
合計	130	100	149	114	85	110	125	142	156	158	155	157	1581

参考:2021年度延人数合計1,027人(未満児:371人 3歳児:79人 4歳児以上:577人)

※2021年度と比較すると利用者は増えているが、保護者の勤務時間によるものや兄弟姉妹で利用するケースが例年より多い。また、一時預かり利用児で延長保育を利用する子も2022年度はいた。(そのため園規則の見直しを行う。)

補助金で玄関ホールに絵本コーナーを設置する。絵本棚、絵本、椅子や絨毯を購入する。

- ③地域子育て支援拠点事業 … 地域の子育て中の親子の交流促進や育児相談等を実施し、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、全ての子育て家庭を地域で支える取組である。

▶地域交流室(センタールーム)、園庭開放 : 月曜日～金曜日 10:00～15:00

様々な玩具や絵本をそろえて親子でゆったりと自由に遊べるよう開放している。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用者	参加組	13	18	32	18	12	24	35	44	33	14	21	300
	子ども	14	18	39	19	12	24	35	44	37	14	21	319
	保護者	14	18	33	19	12	24	38	44	33	14	21	306

▶育児講座：月1回程度、製作等を中心に育児や生活が楽しくなるような内容や保護者の関心のある活動を取り入れ、園の地域交流室で実施する。

月	活動内容	利用者			月	活動内容	利用者		
		参加組	子ども	保護者			参加組	子ども	保護者
4	運動遊び	2	2	2	10	運動会ごっこ	3	3	3
5	小物入れ製作	2	2	2	11	マグネット製作	4	4	4
6	花瓶、花瓶敷製作	6	6	6	12	コロナ感染拡大のため中止			
7	コロナ感染拡大のため中止				1	運動遊び	2	2	2
8	お菓子の缶で玩具製作	2	2	2	2	メモスタンド製作	2	2	2
9	コロナ感染拡大のため中止				3	遠足(三津公園)	4	4	4
					合計				

④障害児保育事業 … 障害児の保育を推進し障害児に対する適切な処遇の確保をする。

対象児：5歳児 1名（児童発達支援サービス&放課後デイサービスえるむ利用）

・生活の基盤は園におき週1回えるむに通所する形をとる。えるむとの連携が充分に取れなかったのが反省点である。

・教育相談を受けて、小学校では特別支援学級に在籍するようになる。

配慮が必要な園児：0歳児 1名、2歳児 2名、4歳児 1名

・気になる子どもや発達の緩やかな子どもに対しての関わり方、働きかけ方等職員同士話をし共有する。

・保護者には園での様子を丁寧に伝え、保護者の意向を聞きながら今後の関わり方やどういう風に支援に繋げるか等、話をする。

※2022年度 他の施設を利用しながら当園に在籍していた園児は1名であったが、一般的に言われるグレーゾーンの子どもの年齢にもみられる。日々の生活の積み重ねで習得したり、成長し保護者も子どもも困り感が薄れることもあるが、中には支援に繋がった方がその子自身の伸びしろが広がる場合もある。日常の中の小さい気づきを保護者と共感しながら、その子にとってより良い環境になるように努めたい。

また、2022年度は一時預かりの3歳児3名が、児童発達サービスの施設と併用されていた。そのうち2名はサービスを受けられる日数を殆ど利用されながら給食前に登園し、一時預かりを利用する子もいた。2月からは難病のお子さんも一時で預かり、障害児保育も今までの様なあり方では、支援やサービスが必要としている家庭に届かないのを実感している。

7. 小学校との連携

【卒園児18名】

三津浜小学校 … 3名 宮前小学校 … 7名 高浜小学校 … 2名

久枝小学校 … 1名 和気小学校 … 1名 潮見小学校 … 2名

伊予市立郡中小学校 … 1名 愛媛大学教育学部附属小学校 … 1名

※それぞれの小学校によって交流や連携の進め方は違っていたが、2021年度と比較すると就学前から小学校に興味や関心が持てるように、制限や短縮がある中で工夫されて企画されていた。また、引き継ぎでは、各小学校から教員がきてくださり、個々の様子を丁寧に聞きとりして下さった。小学校の行事等にはまだ参加できなかった。

8. 苦情及び苦情解決の状況について

※2022年度は外部に向けて報告する苦情はなかった。（ホームページ等）

保護者から相談という形、また地域の方への配慮が足りなかったと思われることが合わせて2件あった。

①年長児の保護者より給食の遅い子に対して早く食べるように促す職員がいて子どもが給食の時間がしんどいと言っているという相談を受ける。（2人の保護者より）保護者の話をしっかり聞く中、担任が食事をとるために抜けた後、代わりに入るフリーの職員の対応の事であると分かる。その日にフリーの職員と面談し、状況を聞く。本人は強く言っているつもりはなかったようだが実際に子どもがそう感じていることは事実であるので改善をするように働きかけると同時に、日頃より言動に配慮するよう話をする。本人からの保護者への対応は、保護者が避けられたこともあり、園長のほうから職員の思いを伝え、同じことが起こらないよう他の職員にも周知したことを話す。対応した翌日から何も言わなくなったということであった。

②園児と保護者のみ参加の園内バザーを催した時に、地域の方が販売していたたこ焼きを分けて欲しいという電話が入る。電話にでた職員が「今日のバザーは園の関係者のみで地域には販売していない」と伝え「分かりました」と電話を切られたと報告がある。気になり地域の方のお宅を訪問し、職員の電話対応をお詫びする。快く思われていないことも充分理解できた。また、その方と園の関係性を思うととても失礼なことだったことを職員全体に伝える。なかなか溝は浅くならないと感じているが、その後挨拶するとお話ししてくださったり、フェンス越しでも会話ができたりとしているので、引き続き誠心誠意対応を心がけたい。また、同時に職員への地域への思いや繋がりを折に触れて話して、地域あつてのこども園であることを伝えていきたい。

9. 職員の資質向上・育成（参考資料：別記1）

※キャリアアップ研修は計画的に受講できそれぞれの分野の知識を深める事ができた。また、対面での研修もすこしづつ開催され始め、講師の生の声を聞いたり、他の園の取り組み等も聞くことができた。ライブ配信、アーカイブ配信、対面とそれぞれの形での学びの時間があるのはたくさんの利点があった。学んだことを他の職員に伝える場が文書での配信が主になっていることは反省である。発表できる機会を柔軟に取り入れたい。

※ICT化に伴い、準備から運用まで2022年度で行うことができた。その中で殆どの職員がオンラインでの勉強会に参加したり、また講師を呼んでICT化について説明をしてもらい園全体で取り組めたことは良かった。ICT化することで効率的に仕事ができるようまで持っていけたらと思う。また効率化できることで自分の時間をもち自己研鑽やリフレッシュの時間をとることができればと思う。

※若い職員の育成は大きな課題である。保育・教育の専門的なことも当然身に着けて欲しいが、社会人として最低限のことから教えていかないとけないという時代になっているのを痛感している。個々に教育係をつけたが、一人は途中から産休・育休に入ったことで担当が変わったり、もう一人のほうは、教育係のほうに根をあげ、全体でサポートしたが育成することができず、3月末で退職となった。

10. 食育活動、アレルギー対応について

※食育の取り組みとして年齢別に年間計画を立て、園児の健やかな食習慣を培うようにした。コロナ感染症拡大防止のため、状況をみながら取り組む。ランチルームでの給食をクラス別で順を追って再開する。

誕生日会、給食弁当は月1回行う。

月	活 動 内 容
4 5	いちごの収穫 動物園遠足(給食弁当をお昼に間に合うように届ける) 野菜の苗を購入し、クラス別で苗植えをする。 (ひよこ組…枝豆、トマト りす組…ミニトマト、中トマト うさぎ組…きゅうり きりん組…ブロッコリー くま組…ピーマン) 芋の苗植え…園長、職員、園児(くま組)が畑寺の畑で行う。(他園と合同)
6	たこ焼き
7 8	海水浴(給食弁当) かき氷、スイカ割り、野菜収穫、 とうもろこしの皮むき
10	芋ほり…急遽決まったので職員のみ参加(他園と合同)
11	年中、年長児バザーのクッキーの型抜き体験 愛隣ミニバザー(ホットドック、たこ焼き、ポップコーン、クッキー)
12	各クラスでクリスマスパーティー(カレーピラフ、マッシュポテトサラダ、鶏とトマトのチーズ焼き、きのこスパゲッティ、フルーツポンチ) 土鍋でのおでん
3	卒園児のリクエストメニューを給食に反映する。

※アレルギー児への対応は入園前の面接で保護者と話をし、個々の状況を把握する。アレルギー対応が必要な園児は、かかりつけ担当医のアレルギー除去食に関する連絡票を提出してもらいその指示に従って給食を提供する。2022年度は10名に対応した。一時預かり利用者のアレルギー対応の子も多く給食室は毎日間違いがないように努めている。食べさせる保育教諭も給食室と連携しながら食事を提供しているが、2022年度は誤食があった。ハムを除去すべきところをハムの入ったものを口にしてしまった。数口食べたあと保育教諭が気づき大事には至らなかったがあってはならないことで、十分に健康観察をし保護者に謝罪をした。

	年齢・性別	アレルギー	除去の状況	解除
1	0歳 男児	卵	完全除去 調理器具・食器別対応	
2	0歳 女児	卵	完全除去	10月27日解除
3	1歳 男児	卵	つなぎはOK	3月10日解除
4	1歳 男児	卵	完全除去	8月16日解除
5	1歳 女児	卵・乳・小麦	完全除去 (ヤクルト・味噌・醤油OK)	
6	2歳 男児	卵	つなぎはOK	11月7日解除
7	2歳 男児	卵・小麦・大豆他	完全除去 (味噌・醤油・豆腐・もやしOK)	
8	2歳 女児	卵	つなぎはOK	4月14日解除
9	5歳 男児	卵・ナッツ類全般他	完全除去	
10	5歳 男児	魚	焼き魚、甲殻類はOK 煮魚除去	

(別記1) 研修参加状況について

2022年度 施設外研修

No.	実施月	研修会名	参加職種	研 修 内 容	場 所
1	2022.4.16 2022.4.30 2022.5.14	保育システム活用研修 計画・記録 保育システム活用研修 保護者連絡 保育システム活用研修 登降園管理	園長 主幹保育教諭 事務員	計画・記録 システムを活用した指導計画や保育日誌の作成について 保護者連絡 保護者への一斉連絡や欠席・遅刻連絡のシステム化について 登降園管理 手作業で行っていた登降園情報の管理・集計をシステム化するメリット	オンライン
2	2022.6.2	令和4年度 発達支援実践研修(第1回)	主幹保育教諭	教育相談へのつなぎ方 ～就学に向けて～	松山市
3	2022.6.10 2023.2.21	2022(令和4)年度 教育・保育施設長 専門講座	園長	プログラム(1) 保育の将来ビジョン プログラム(2) 新たな保育サービスの開発 プログラム(3) 保育事業の戦略	オンライン
4	2022.10.5	令和4年度 保育従事者のための救命講習会	保育教諭	救命講習 実技	松山市
5	2022.5.20 2022.6.2	2022年度 新任保育士研修	保育教諭	1.聖書から考えるキリスト教保育 2.日本キリスト教保育所同盟のミッションステートメントについて 3.聖書のお話をしようか 4.こどもと歌うさんびか	オンライン
6	2022.5.28	松山市保育会 体育研修	主幹保育教諭	幼児期のケガをしない身体作りと補助方法	松山市
7	2022.5.18	社会福祉法人 愛隣園 新入職員研修	保育教諭 事務員	・仕事に取り組む心構え ・社会人(組織人)としての基本のマナーを 身につける ～接遇5原則～	松山市
8	2022.6.15 2022.6.29	令和4年度 愛媛県教育・保育施設 初級職員研修会	保育教諭	講義Ⅰ「保育士として 講義Ⅱ「愛情深い保育・育む環境・倫理観について」 講義Ⅲ「子どもの主体性を育む大人の関わり」～子どもの遊びをおもちゃを通して～	オンライン
9	2022.6.24	保育所等給食・食育担当者研修会	調理員	「SDGsについて」「保育所等給食での衛生管理について」	松山市
10	2022.6.23 2023.2.11	令和4年度 愛媛県保育士等 キャリアアップ研修	保育教諭	①乳児保育 ②幼児教育 ③障がい児保育 ④食育・アレルギー対応 ⑤保健衛生・安全対策 ⑥保護者支援・子育て支援 ⑦マネジメント研修 ⑧保育実践研修	オンライン
11	2022.7.5	令和4年度 第1回 松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演:子育て支援のためのコミュニケーションワークショップ「ベアトレから 学ぶほめ方のコツ」 グループ討議・事務連絡・閉会	松山市
12	2022.7.5	2022年度 第1回職員研修会	主幹保育教諭 事務員	テーマ「保育業務のICT化について」 第一部 講話「現状説明と今後の取り組み」 第二部 事例発表	松山市
13	2022.7.14	保育士・保育教諭実技研修会	保育教諭	講義「乳幼児の夏の病気(皮膚病等)予防と対応」	松山市
14	2022.8.6	松山市保育会 相互研修	保育教諭	木遊びのすすめ	松山市
15 自肅	2022.8.26	令和4年度 発達支援実践研修(第3回)	保育教諭	障害のある子どもの理解と支援 ～保育実践で集団活動と個の支援を 両立させるコツ～	松山市
16 自肅	2022.8.7	第15回 愛媛こどもの食物アレルギー シンポジウム	園長 主幹保育教諭	愛媛こどもの食物アレルギーシンポジウム	今治市
17	2022.9.28	令和4年度 第2回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演「あなたのままでうまくいく 利用者サポート」 情報交換・事務連絡	松山市
18	2022.10.29	令和4年度 松山市施設長研修会	園長	講演「え！？実はそうだったの？新任保育士の本音」～職場への定着に向けて～	松山市
19	2022.11.1	令和4年度 第3回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演 子育て支援のためのコミュニケーションワークショップ 「効果的な指示の与え方」	松山市
20	2022.11.19	2022年度 第2回 松山市子ども・子育て 連絡協議会 研修会	主幹保育教諭	「障がい児保育」①障がい理解、子どもの不便さ・自由さ ②統合保育での 芽生え(園児同士の育ちあい) ③保護者支援、関係機関との連携の持ち方	松山市
21	2022.11.26	令和4年度 松山市医師会園医会総会	園長	講演「発達が気になる子への対応」	オンライン
22	2022.12.12 2022.12.26	令和4年度 認定こども園研修会	園長	行政説明・基調報告 講義Ⅰ「認定こども園の基礎と運営戦略について」 講義Ⅱ「保幼小の接続を見据えた教育・保育のあり方について」 講義Ⅲ「地域家庭支援のためのリーダー育成について」 講義Ⅳ「虐待予防を踏まえた認定こども園の役割について」	オンライン
23	2023.1.13	給食担当者研修会	調理員	第2回 講演・実習「デコ寿司」	松山市
24	2022.12.22	緊急:危機対策セミナー	園長	緊急:危機対策セミナー	オンライン
25	2023.1.31	令和4年度 第1回松山市地域子育て 支援拠点事業連絡会	保育教諭	講演「松山市の子育て支援環境について」 情報交換・事務連絡	松山市
26	2023.2.6 2023.2.17	給食施設のための栄養講習会	調理員	「安心安全な給食提供に向けた衛生管理」 「満足度向上に向けた給食管理と衛生管理の工夫 ～取組事例から学ぶ～」	オンライン
27	2023.1.25	令和4年度 松山市要保護児童対策 関係機関研修会	園長	講演「ヤングケアラー当事者の人生から考える支援の方法」	オンライン
28	2023.3.8	不適切な保育を未然に防ぐための研修会	主幹保育教諭	講演「子どもの権利擁護の視点にたつ保育 ～不適切な保育にならないための3つの力～」	松山市
29	2023.3.22	松山市保育会代議員会	保育教諭	令和4年度 事業報告(案) 令和4年度 会計報告(案) 令和5年度 事業計画(案) 令和5年度 会計予算(案)	松山市

(別記2) ケガ・感染症について

こども園で手当てをし、保護者に報告したもの(ヒヤリハット報告書)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	参考2021年度
唇のケガ	1 2歳児1名		2 1歳児2名					4 0歳児1名 1歳児1名 2歳児1名 5歳児1名		1 2歳児1名			8	23
打ち身等	5 2歳児1名 3歳児3名 5歳児1名	10 1歳児3名 2歳児4名 4歳児3名	5 1歳児1名 2歳児3名 5歳児1名	6 0歳児2名 1歳児1名 2歳児2名 5歳児1名	6 0歳児2名 1歳児2名 2歳児2名	3 0歳児1名 3歳児2名	1 1歳児1名	4 3歳児1名 5歳児3名	4 1歳児1名 2歳児1名 3歳児2名	4 0歳児1名 1歳児1名 3歳児2名	4 2歳児2名 5歳児2名		52	63
ひっかき		2 2歳児1名 4歳児1名	4 2歳児1名 3歳児3名	1 4歳児1名	1 3歳児1名	1 4歳児1名	3 0歳児2名 1歳児1名	2 3歳児1名 5歳児1名	2 3歳児2名	2 1歳児1名 2歳児1名	1 0歳児1名	2 2歳児2名	21	25
かみつき	1 1歳児1名	2 1歳児2名	2 1歳児1名 2歳児1名	2 1歳児1名 2歳児1名		2 1歳児2名	1 1歳児1名	1 0歳児1名	1 3歳児1名				12	9
すり傷等	4 4歳児2名 5歳児2名	5 4歳児1名 5歳児4名	4 3歳児2名 5歳児2名	4 5歳児4名			2 2歳児2名	1 4歳児1名				1 2歳児1名	21	40
軽い火傷													0	1
つねった傷			1 5歳児1名										1	
指をつめる						1 1歳児1名							1	2
誤食					2 0歳児1名 1歳児1名								2	2
爪のケガ		1 5歳児1名	1 5歳児1名										2	1
誤薬													0	1
切り傷		1 2歳児1名	1 1歳児1名										2	7
脱臼				1 3歳児1名			1 2歳児1名						2	1
とげ		1 2歳児1名											1	1
骨折							1 5歳児1名						1	
筋が伸びる										1 5歳児1名			1	
合計	11	22	20	14	9	7	9	12	7	8	5	3	127	176

内病院を受診したもの7件(参考2021年度8件)

病院受診のケガ

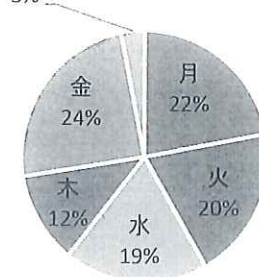
- ▷左足親指の爪…5歳児 自分で爪をはがしてしまい出血をする。わたなべ形成外科を受診し、はがれている爪を切ってもらい、塗り薬をもらう。土台の爪は、新しくできていて化膿もしていない。
- ▷左目瞼の際を切る…1歳児 ジップロックの玩具を持っている時に瞼の際にあたり切り傷ができ出血をする。わたなべ形成外科を受診する。軟膏をもらい1日3回塗り、様子を見る。
- ▷左の腕が抜ける…3歳児 午睡時に布団の上で寝転がっている時に急に泣いて痛み、左腕が上がらなくなる。高松接骨院を受診し、抜けていたため治してもらう。
- ▷鼻を打ち出血する…2歳児 トイレでパンツとズボンを下げた状態でバランスを崩し、便器で鼻を打ち出血する。口の中に血が見られたため、いちかわ歯科を受診する。歯や口腔内に異常がなく、鼻血が口に下りたためであった。
- ▷左手首が抜ける…2歳児 広場の芝生の山で遊んでいる時に他児に上から引っ張られ、左肘を痛がる。高松接骨院を受診し、左の手首が抜けていたため、治してもらう。
- ▷唇を噛み出血し腫れる…0歳児 遊んでいる時にバランスを崩して転び、下唇を噛み出血し、しばらくして腫れる。いちかわ歯科を受診する。歯や口腔内は異常がなく、消毒をし様子を見る。

▷首の筋が伸びる…5歳児 友だちが抱き着いたときに一緒に転倒する。首を痛がりそのまま様子を見るが、翌日まで痛みが続いたため高松接骨院を受診する。首筋が伸び、緩い筋肉が張って痛みが続いていたようだ。3日間通院し、筋肉がほぐれる治療を受け、痛みがとれる。

曜日別のケガの件数

	月	火	水	木	金	土	合計
午前	20	18	18	13	25	4	97
午後	8	7	6	2	6	0	29
合計	28	25	24	15	31	4	127
曜日別 病院を受診したもの							
午前	1	0	0	3	0	0	4
午後	1	1	0	0	1	0	3
合計	2	1	0	3	1	0	7

曜日別発生状況



0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12	27	30	21	10	27	127

年齢別ケガの状況



〈け が〉 未満児による噛みつきやひっかき傷が多くなってしまったが、昨年度より けがの数は、少なかった。けがにより病院を受診するが、異常がなく、様子を見たり、症状が軽いものであった。

感染症	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	参考 2021年度
インフルエンザA型												1	1	
インフルエンザB型														
コロナウイルス感染症			1	2 (職員 1)	12 (職員 1)	13 (職員 8)			14 (職員 4)	4			46 (職員 14)	1
感染性胃腸炎 (ノロウイルス、ウイルス性胃腸炎、 急性胃腸炎、胃腸炎を含む)	2	2	4		1					1	3	3	16	37
流行性耳下腺炎														
クルーズ症候群						1				1	1		3	
ヘルパンギーナ							1						1	1
溶連菌感染症								1					1	
手足口病							8						8	13
RSウイルス			1	4	1								6	15
アデノウイルス										1		2	3	7
扁桃炎														2
ヒトメタニューモウイルス														
突発性発疹	1	1	3										5	9
流行性結膜炎											1		1	1
水ぼうそう														
マイコプラズマ肺炎										1	2		3	
ヘルペス									1				1	
合計	3	3	9	6	14	14	9	1	15	8	7	6	95	86

〈感染症〉 昨年度より継続し、消毒や掃除を徹底して行い、マスクを着用して生活したため、昨年より胃腸炎などの病気の流行が少なかった。しかし、コロナウイルスの感染は増え、クラス閉鎖をしたり、解熱後24時間は用心して頂いたり、保護者の方にも協力して頂きながら感染が拡大しないように努める。個々の健康観察も十分に行うようにした。

2022 年度(令和 4 年度)

ガリヤ荘 事業報告

〔事業の種類〕

I. 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設入所者生活介護)	定員 80 名
II. ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)	定員 20 名
III. デイサービス(〔介護予防〕通所介護)	定員 35 名
IV. ホームヘルプサービス(〔介護予防〕訪問介護)	
V. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)	
VI. 在宅介護支援センター(委託事業)	

1.-1 ガリヤ荘(全体)

取組事項	取組内容
命と尊厳を守り安心して生活できる施設づくり	① 基礎介護力を高め、穏やかな生活を提供できるために、トータルケア(総合的視点による予防的ケア)の知識・技術の向上を实践する。(目標:外部研修〔WEB 含む〕参加、フィードバックのための内部研修〔書面含む〕開催) ■ 外部研修参加 (新型コロナウイルス感染症対策として、主にオンライン参加) ■ 内部研修開催 (新型コロナウイルス感染症対策として、主に書面開催または小規模開催) ② 人権尊重、プライバシー保護を徹底するとともに身体拘束廃止、虐待防止、事故防止に努める。(目標:委員会活動〔毎月〕による検討・分析・評価を行い、総合委員会〔毎月〕を開催し、情報共有、ケア方法の見直しをより多く実現する) ■ 総合委員会〔9 回〕※11 月-1 月について新型コロナウイルス感染症対策に伴い中止 その他、各委員会活動〔12 回〕※毎月 ■ 内部研修開催 1) ケア向上(排泄)〔10 回〕※俳光洋排泄ケアオンライン年間教育プログラム参加 2) ケア向上(ハーフテイング)〔1 回〕 3) 看取りケア〔2 回〕 4) 介護事防止(リスクマネジメント)〔2 回〕 5) 身体拘束虐待防止〔2 回〕 6) 衛生管理(感染症対策)〔総合訓練 2 回、勉強会 2 回(食中毒/感染症全般)〕 7) 権利擁護・法令遵守〔1 回〕 ■ 朝礼(全体/各部署)の開催〔月～土〕 ③ 健康管理。服薬管理を徹底し、またトータルケアを实践することで、病気の重症化や再発予防に努める。(目標:記録管理の元、専門職によるダブルチェック〔毎週〕を開催し医療連携のうえ、長期入院の減少、利用減少予防を目指す) ■ 利用者・入所者の状態をダブルチェックする検討会(毎週)開催 ■ ミールラウンドによる摂食嚥下機能検討/評価の開催〔月 1 回〕 ■ 衛生管理委員会(1-2 回/月)開催(新型コロナウイルス感染症対策会義を含む) ■ 内部研修開催〔4 回〕(うち 2 回感染対策訓練) 〔インフルエンザ/ノロウイルス発症 0〕〔新型コロナウイルス感染症発症 51※施設クラスター分〕

自立支援に視点を置き、個性性を尊重した、より良質なケアサービスを提供する	① アクティビティ(行事・レクリエーション活動など)を充実させスタッフも共に楽しむことで暮らしが豊かになる環境を創る。(目標:年間計画を作成し、計画的な実践を行う) ■ 全体行事について新型コロナウイルス感染症対策により中止 ■ 通所及び特養短期ユニットについて、毎月小規模による行事開催 ② 排泄ケア・ノーリフティングケアの実践を定着させ、ケアスタッフの介護技術向上に努める。(目標:技術の定期確認と福祉用具の適切運用管理) ■ 排泄ケア年間教育プログラム(関光洋)基礎編:ユニットリーダー1名参加 排泄ケア年間教育プログラム(関光洋)排便編:業務課長1名参加 ■ ノーリフティングケア:外部研修(WEB)、現場ラウンドチェック ■ 多職種共同による個別ケースの評価と実践 ③ 在宅サービスをトータル的にサポートし、個別ニーズに応じた必要なサービスを提供できるよう支援する。(目標:在宅委員会による困難ケースの共有、地域関係期間との連携) ■ 地域包括支援センターとの連携(各種会議・研修参加) ■ 関係機関との連携(東温市生活支援協議体、介護ネット東温、東温市健康相談) ■ 在宅委員会開催(12回)
地域における福祉拠点となるよう、福祉また社会ニーズを捉え、地域との交流を充実する。	① 地域における公益的な取組として、地域活動の推進を継続する。(目標:男性介護者対象のおとこ塾・地域サロンへの出前講座など、コロナ禍での感染対策の元、可能な計画を実行) ■ 地域サロンへの出前講座 <u>(新型コロナ感染症対策としてすべて中止)</u> ■ おとこ塾(男性介護者支援の会)(2回) 令和4年4月16日(場所:ガリラヤ荘 木工・流木アート製作)(参加者:5名) 令和4年11月12日(場所:ガリラヤ荘 木製パズル製作)(参加者:4名) ■ 東温市介護相談員訪問(12回) ② 地域交流の機会を積極的に実践する。(目標:地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校との交流会、各種ボランティアの受入を積極的に行う) ■ 各交流会開催(川上幼稚園、川内保育園、川上小学校) <u>(新型コロナ感染症対策として中止)</u> ■ 各ボランティア受入 <u>(新型コロナ感染症対策としてすべて中止)</u> ■ 地域自主防災組織連携(防災合同訓練) 令和4年6月12日実施 ③ ホームページ・ブログを定期的に更新し、情報発信を積極的に行う。(目標:ホームページを中心として情報発信をする。ブログを全事業所毎月更新する)(検討課題:広報誌を検討し、年4回の発行を目指す) ■ ブログ配信(定期更新中)(https://www.aalinen.jp/) ■ 広報誌[法人製作により中止](代替えとして、チラシを定期製作へ変更し実施中)
スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上を目指す。	① 全職員・全職種を対象とした研修を継続実施し、最新の知識・技術と合わせ、専門性と実践力の向上を図る。(目標:介護テキストの更新) ■ 主任(リーダー含)以上参加による研修会開催(新型コロナウイルス感染症対策として、主にオンライン参加)(3回:R4.6、10、R5.3) ■ 内部研修開催(新型コロナウイルス感染症対策として、主に書面開催) ■ 専門書籍、最新情報等の全体回覧の実施 ② 新任・中途採用者教育を継続実施し、エルダー面談、定期面談を計画的に実施する。 ■ 入職時新人研修及び、フォローアップ研修開催 ■ エルダーによる個別面談開催

やりがいを感じ働きやすい職場づくり、離職者ゼロを目指す。	① リフレッシュ休暇による有給休暇(8連休または4連休×2回)の計画的付与を行う。※(年休6日+公休2日) ■ リフレッシュ休暇取得推進(計画取得済) ② 委託期間によるメンタルヘルス対策、ストレスマネジメントに積極的に取り組む。(目標:定期的な情報発信、ストレスチェック実施、メンタルヘルス研修実施) ■ ストレスチェック実施(NPO 法人こころ塾との従業員支援事業委託) ■ メンタルヘルスに関する情報提供及 ■ メンタルヘルスフォローアップ研修及び新人職員個別面談開催(1回) ③ 継続的に業務改善に対する検討を図り、サービス残業ゼロを目指す。(目標:業務マニュアルの更新) ■ 各業務の効率化に関する協議(5S推進委員)開催 ■ 各会議・研修等、勤務時間中開催の推進 ④ スタッフの成長とチームワーク向上、ユニット活動の活性化を目的とし、ユニット間の人事異動を定例実施する。 ■ 特養短期介護職員ユニット移動実施[令和4年11月1日]
各業務の可視化・標準化における介護ロボット・ICTなどの導入を目指し、2025年に向けた既存事業の強化を図る。	① 目的と効果を明確にした介護ロボット・ICT等の導入を研究・試用し、基盤整備に取り組む。(目標:中長期計画との連動【介護記録ソフトの導入検討】) ■ 情報収集のみ。 ② 在宅サービス利用者数の増加及び入所稼働率向上に向けた魅力ある事業所づくりを進める。(短期・通所・訪問の市場拡大の検討、特養待機者の確保、各種加算の取得) ■ 運営会議/在宅委員会開催[毎月]し協議検討実施。 ■ 部課長会議開催[不定期/随時]し課題整理実施。 ■ 各事業所・部署会議開催[1回/月]し情報共有。 ③ 事業所毎の適正な予算編成と管理を行い、ムリ・ムラ・ムダのない運営を実践する。(目標:5S推進、消耗備品在庫管理体制見直し、予算管理の情報共有) ■ 運営会議開催(5S推進委員会含む)し各事業所毎月の稼働実績を正確に把握。 ■ 各種消耗品等の在庫整理の見直し実施(運営会議での共有実施) ■ 電気料金高騰による節電・節水の見直し等検討(運営会議での共有実施)
快適な居宅環境の整備をすすめ、感染症対策また防災防犯対策を強化する。	① 移転後10年以上経過し、設備・環境についての経年劣化に対する修繕計画を策定し、計画的に実行する。(目標:中長期計画との連動【入浴機器の見直し】) ■ 入浴機器の新規購入(特養短期:個浴機器5台、通所:個浴機器1台、全体:特浴機器1台) ■ 各種洗面温水機器、居室エアコン不具合における修繕実施 ② 感染症対策を強化し必要物品の確保、予防の徹底を行う。特に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策について徹底し大規模クラスター発生防止に努める。(目標:各感染発症数「0」を目指す) ■ 新型コロナウイルス感染症対策会議定例開催し、周知徹底事項について全職員への情報発信(資料配布)を実施。 ■ 感染対策時の必要物品の備蓄量管理の実施。 ■ 新型コロナウイルスワクチン接種の実施及び、頻回抗原検査(行政指示を含む)の実施 (新型コロナウイルス感染症発生状況 : クラスター2件 感染者数延41名) 1) 令和4年10月 短期入所 入所者3名 職員8名 (収束日:令和4年11月10日) 2) 令和4年12月 特養 入所者18名 職員12名 (収束日:令和4年12月21日)

	③ BCPに基づき、大規模災害に対する対策に努める。また地域(行政・地域住民(自主防災)との連携に努める。(目標:定期防災訓練・防犯訓練の実施、福祉避難所訓練の実施、地域防災活動との連携) ■ BCP(事業継続計画書)を完成に向けた検討会議開催。 ■ 各種訓練の開催 (新型コロナウイルス感染症対策として、一部中止、また規模縮小開催)
--	--

1-2 新型コロナウイルス感染症対策に関する報告

① 感染対策設備・備品

①-1 必要物品のリスト化し、感染対策備品管理を実行

- ・ 不織布マスクについて全スタッフへ定期支給
- ・ フェイスシールドの支給及び介助時、常時装着
- ・ 共用箇所への手指消毒用アルコール(足踏み式)の設置
- ・ 防護具セットの準備と設置(初期対応分)
- ・ 非接触型体温計、パルスオキシメーターの設置及び必要スタッフの携帯(訪問介護員等)

①-2 感染対策設備(環境)

- ・ 玄関風除室の再整備(訪問者の感染対策)
- ・ デイサービス利用者の出入り場所変更継続
- ・ 職員出入口の再整備(職員の感染対策)
- ・ 食事テーブルへの飛沫防止パネルの設置継続(デイサービス)(特徴短期ユニット)
- ・ オゾン発生装置(有人/無人除菌用)、二酸化炭素測定器の設置継続(事務室・会議室・面談室/ほか)
- ・ デイサービススタッフのインカム対応継続継続

② 事業所の対応

②-1 特別養護老人ホーム

- ・ 面会方法の見直し継続(面談室面会・オンライン面会)※状態等を考慮し一部居室面会
- ・ 訪問理美容・訪問マッサージ等の受入見直し継続
- ・ 各実習受入の見直し継続
- ・ 全体イベントの見直し継続

②-2 短期入所(ショートステイ)

- ・ 受入時の健康状態の確認継続 ※必要に応じ抗原検査実施
- ・ 新規利用・受入期間の調整継続
- ・ 面会方法の見直し(面談室面会・オンライン面会) ※状態等を考慮し一部居室面会
- ・ 訪問理美容・訪問マッサージ 等の受入見直し継続
- ・ 各実習受入の見直し継続
- ・ 全体イベントの見直し継続

②-3 通所介護(デイサービス)

- ・ 受入時の健康状態の確認継続 ※必要に応じ抗原検査実施
- ・ 新規利用・受入期間の調整継続
- ・ 体験利用等の調整継続
- ・ 各ボランティア、実習等の受入見直し継続
- ・ 全体イベントの見直し継続

②-4 訪問介護(ホームヘルプ)

- ・ 受入時の健康状態の確認継続
- ・ 新規利用・受入期間の調整継続

②-5 居宅介護支援

- ・ 各事業所・地域との連携継続

③ スタッフの対応

③-1 行動自粛制限

- ・ 県内・市町の感染状況に合わせて、行動自粛制限を実施(同居族を含め)
- ・ 県外移動、移動者との長時間接触について、事前申告し、必要期間自宅待機及び抗原検査等を実施(同居家族を含め)

③-2 体調管理

- ・ 出退勤時2回の検温測定実施(非接触型体温設置)
- ・ 体調不良はすべて自己判断せず、自宅待機の上、受診結果対応の実施(同居家族を含め)
- ・ 抗原検査キットを確保し、必要時使用(あきらかな症状がある場合は受診指示)

③-3 施設内移動制限

- ・ 所属先からの移動は最低限とし、更衣室・休憩室の使用制限(3密回避)
- ・ 会議等は最低限とし、書面による開催・オンラインによる開催実施。

③-4 社宅等の利用

- ・ 同居家族に疑うべき症状や要因がみられ、勤務に支障が出る場合は、希望に応じて、社宅を使用。

【コロナ禍における面会受入状況】 ※延人数

4月	50人	10月	148人
5月	99人	11月	97人
6月	130人	12月	81人
7月	163人	1月	112人
8月	184人	2月	116人
9月	119人	3月	185人

※)特養/短期入所入居者

※)予約面会(2週間に1回を基本)の他、看取り等に係る面会を含む

※)面会場所:面談室、会議室を使用した対面面会及び看取り等に係る居室面会を含む

※)オンライン面会は除く

2. I .特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設入所者生活介護)

2.-1 入所者の状況(令和5年3月31日現在)

【入所・退所状況】

待機者数(令和5年3月末現在 27 名)

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
9	22	31	9	24	33

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	17	61	78
平均年齢	86.7	89.6	89.0
最高齢	100	99	-
最年少	71	68	-

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
1	0	1	1
2	0	0	0
3	4	12	16
4	7	36	43
5	6	12	18
平均	4.1	3.9	4.0

2.-2 医療の状況

【入院状況】

	実人数	延日数
4 月	6	80
5 月	7	112
6 月	12	163
7 月	13	168
8 月	9	169
9 月	7	94
10 月	8	102

	実人数	延日数
11 月	10	144
12 月	14	240
1 月	8	111
2 月	4	81
3 月	6	72
合計	104	1536
月平均	8.7	128

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	11	12
尿路感染	8	1
胆・膵・肝機能系	2	2
腸閉塞・腸炎	6	8
心疾患	5	12
脳梗塞	2	2
骨折	3	3
その他(新型コロナ含)	24	10
合計	61	50

【医療管理状況】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	5	6
在宅酸素療法	2	0
人工肛門	0	0
尿道留置カテーテル	2	3
インシュリン注射	0	0
痰の吸引(常時)	2	3
合計	11	12

※緊急搬送回数 2 件※)新型コロナウイルス感染症関連 (前年度 0 件)

《総評:健康管理係長》

令和 4 年度は 33 名の退所があり近年においては最も多い年であった。長年入所されていた方の看取りや、入所時点において状態が安定せず入院する方、新型コロナウイルス感染症が発生し、感染後のリカバリーがうまくいかず体調を崩される方など、複数の要因が考えられる。最近是新規の特養入居者の重度化が否めず、介護度が高い＝準看取り状態のようなケースで入居受入を行う状況も増加している。またこの状況は今後も続くと思われる。入居者個人が複数の慢性疾患を抱えおり、医学的管理の必要度が高まっているため、個々の看護師の知識・技術の向上も求められるところである。令和5年度はある程度のコロナの制限緩和もされるため、積極的に職員研修を実施し、新しい看護・介護の知識・技術の習得と、職員全体の知識・技術の向上を念頭において教育をしていくことが今後の重度化対応に必要と考える。

2-3 機能訓練の状況

【週間スケジュール】

	担当	月	火	水	木	金	土
午前	ユニット職員	集団体操 (各ユニットにて)					
	機能訓練指導員	個別機能訓練(南1)	ダブルチェック	個別機能訓練(中1)	個別機能訓練(中2)	個別機能訓練(南2)	個別機能訓練(フリー)
	ユニット職員	お口の体操 (各ユニットにて)					
午後	機能訓練指導員	レクリエーション:各ユニット月 2 回程度 クラブ活動:習字クラブ(月 1 回 1 ユニットずつ実施) 縫布クラブ(第 1 火曜)・俳句会(第 4 水曜) ※)新型コロナ感染症対策として中止					
	理学療法士(非常勤)		個別機能訓練宮岡 PT			個別機能訓練宮岡 PT	

【機能訓練内容】

職種	内容	
ユニット職員	生活リハビリ	離床、ポジショニング・シーティング、口腔ケア・リハ、座位・立位訓練、手作業、代替行動の提供など
	集団体操	朝の集団体操、お口の体操

機能訓練指導員	個別機能訓練	関節可動域訓練、ポジショニング・シーティング、口腔リハ、座位・立位訓練など
	集団活動	集団体操(朝の集団体操、お口の体操) 集団レクリエーション(音楽クラブ、風船バレーなど)
理学療法士(非常勤)	個別機能訓練	関節可動域訓練、ポジショニング・シーティング、立位、歩行訓練、生活リハビリの指導など

【外部専門家によるスーパーバイズ】

	内容
河野歯科医師	・個別の歯科治療(随時) ・「基本サービスとしての口腔衛生の管理体制」のための技術的助言・指導(年2回) ・「口腔衛生管理加算」のための口腔内チェック(月1回)
阿部歯科衛生士	・「口腔衛生管理加算」のための口腔ケア(月2回) ・「経口移行」「経口維持」のためのミールラウンド(月1回)

【機能訓練実施状況】

機能訓練実施延べ人数

機能訓練内容	今年度	前年度
①身体運動機能(うち宮岡 PT)	752(617)人	788(659)人
②摂食嚥下機能	69 人	87 人
③認知言語機能	11 人	7 人
④集団活動	889 人	1,415 人

※)介護職員による生活リハビリを除く

《総評:機能訓練指導員》

新型コロナウイルス感染症発生時等、居室対応を強いられケアが十分行き届かず、ADL や心身機能が低下した例が多数見られ、その後の機能回復にもかなり時間を要するケースが大半であった。日頃のケアの大切さを認識するとともに、有事でもできることを検討し実施する必要性を感じた。今年度は骨折事故発生し、介護スタッフの移乗技術の再点検を実施した。ノーリフティングケア普及の影で、身体の使い方の理解や基礎介護能力の低下がすすんでおり、それらが要因の1つとなっていると考えられた。主にリフトを使用しない移乗方法や座り替えについての勉強会をユニット単位で実施し、対応の徹底を試みた。また、福祉機器の使用にあたっては、導入時や必要時には業務課長や機能訓練指導員がチェックするよう統一を図った。この2点はまだ徹底が不十分なため、今後も対応継続していく必要があるが、その後、移乗技術に関する諸問題は改善傾向にある。口腔ケアに関して、お口の体操の普及は例年の課題事項であるが、ユニットごとに、お口の体操の必要な個人への対応から、全体での実施へつなげる工夫を試み、今後も継続していくとともに、全ユニットが統一して実施できるように努めていきたい。今年度は、機能訓練指導員として排泄ケアに関わるが増えた。トイレ使用時の動作や姿勢の評価、道具の検討など実施している。多職種でかかわることで、より良い排泄ケアの実現に努めていきたい。入居者の重度化に伴い姿勢保持等のポジショニングについて、ポジショニングカード作成したり直接伝えたりして統一を促しているが、本質的な理解につながらないことが課題である。今後、一つずつ具体的なテーマを持ちながら、介護スタッフに対しポジショニングの理解をすすめていきたい。

2-4 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 総合記録シートを活用したケア向上の継続実施〔記録システムの継続〕 ■ オペレーションシート(シフトマニュアル)を活用した統一したケアの実施〔業務マニュアルの継続〕 ■ 多職種連携室を情報共有拠点とした会議、ミーティングの実践〔多職種共同による情報共有〕 《ノーリフティングケア》「目的」:入所者の拘縮予防及び職員の腰痛予防のため。 1. スカイリフト研修を新人研修内で実施。 2. 介護職員に対する移乗技術のラウンドチェック実施 3. 新規使用者への導入時に随時研修実施し、使用状況チェック実施。 【福祉機器の使用状況※年度末適応者数】 ● 移乗時:床走行式リフト(28人)/フレックスボード(1人)/スライディングボード(5人) ● トイレ・入浴時:スタンディングマシン(2人)

2-4 ユニットの取り組み

【中1丁目】

年間ユニットイベント(実績)

4月	春の天ぷらまつり	10月	ちらし寿司づくり
5月	花壇づくり	11月	クレープづくり
6月	わたがしづくり	12月	クリスマス会
7月	あんみつづくり	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	駄菓子屋
9月	お彼岸のおはぎづくり	3月	お茶会

基本ケア 食事・排泄	食事ケアでは利用者が重度化し傾眠や開口困難、吐出しや水分拒否の方が増えてきた。そうした利用者の方々に対するアプローチの仕方、工夫の課題が多いが、スタッフ一人ひとりどうすればよいか考えていきながらアプローチすることができた。排泄ケアでは利用者の状態に合わせて無理せず2人介助を実施した。
基本ケア 認知症	認知症利用者に対しての関わり方において拒否や利用者の言葉に対し、スタッフで連携をとりながら関わる事ができた。
イベント企画 及びアクティビティ	毎月計画的にイベントを実施することができた。職員数の関係で企画準備が難しい状況の時もあったが、担当スタッフ中心にイベントに沿った雰囲気づくりに努め、m利用者に喜んでもらえたと感じる。
ユニット環境 及び衛生管理対策	居室整理整頓や清掃など隙間ケアをさらに丁寧にしていきたい。居室においては収集癖のある利用者など、本人への声掛けや配慮に努めることができた。食事ごとの手指衛生に努めることができた。
スタッフの連携 ・情報共有	スタッフ間で日常的に声をかけあいコミュニケーションをはかることができた。情報共有において申し送りノートの確認だけでなく丁寧な報連相に努めた。

【南1丁目】

年間ユニットイベント(実績)

4月	グリーンカーテンづくり	10月	スイートポテトづくり
5月	ブーケづくり	11月	紅葉ドライブ
6月	あじさい鑑賞・ドライブ	12月	クリスマス会・年会
7月	たらいそうめん	1月	新年会
8月	手持ち花火	2月	恵方巻(巻きずしづくり)
9月	コスモス鑑賞・ドライブ	3月	お花見ドライブ

基本ケア 食事・排泄	入居者にあった食形態で対応し、介助を含め安全な食事提供が実践できた。また排泄については、尿量や排泄間隔等、入居者の状態に応じてパッドを選定し対応することができた。トイレ支援においてスタッフによってはリフトの使用が不十分な状況があるため全スタッフが適切にアプローチできるよう取組んでいきたい。
基本ケア 認知症	認知症の症状やその対応・目的については職員の理解に差がみられるため、統一した対応ができるよう努めていきたい。
イベント企画 及びアクティビティ	計画的にイベントを実施し、安全で楽しく開催することができた。特にドライブについてはコロナ禍で外出する機会がなかったことから喜ばれた方が多かった。普段のレクリエーションへの工夫が今後の課題である。
ユニット環境 及び衛生管理対策	リビングや居室の入口に季節感のある装飾をし、雰囲気作りを行うことができた。清掃について床や車椅子の汚れなど普段から気を付けていかなければならないと感じている。
スタッフの連携 ・情報共有	ユニット会議や申し送りノート、口頭での報連相において情報共有を図っているが、指示や情報の発信が遅れることもあり、連携が不十分になることがあったため改善していきたい。

【中2丁目】

年間ユニットイベント(実績)

4月	散歩・おやつづくり	10月	おやつ作り
5月	ミニ運動会	11月	ミニゲーム大会
6月	たこ焼きづくり・七夕飾りづくり	12月	クリスマス飾りづくり・クリスマス会・ゆず湯
7月	ビーチバレー大会	1月	新年会
8月	すいか割り	2月	豆まき・チョコレートフォンデュ
9月	食事会	3月	ひな祭り・おしゃれして記念撮影

基本ケア 食事・排泄	食事ケアについて、食事・水分ともに摂取量の少ない方に引き継ぎ、記録等はしっかりと行うことができ、情報共有しながら対応することができた。食事姿勢の調整や、食事介助中の声かけなど職員によってばらつきが見受けられる場面もあり課題が残る。排泄ケアについて介助が雑にならないよう丁寧につとめていきたい。
基本ケア	おだやかで丁寧な声かけができるよう、スタッフ一人ひとり注意しながら実践でき

認知症	た。不穏な状態が続く利用者に対しては、側で手作業をしたり、安全面を考えた対応を実践することができている。
イベント企画 及びアクティビティ	計画的に実践できた。これまで企画していなかった新しいイベントも行うことができ、担当スタッフ中心に工夫することができた。入居者からも「楽しかった」「いろいろしてもらってうれしい」という声が聞かえた。昼食前の口腔体操も継続して実践できている。
ユニット環境 及び衛生管理対策	物が多く雑然としていたスペースが目立ち改善していきたい。季節感のある飾りつけや行事等の写真は工夫して掲示することができた。衛生管理について消毒、換気、手洗いなど基本的感染対策を徹底できた。感染対策等の情報伝達についてもユニット内で周知できた。
スタッフの連携 ・情報共有	業務の流れなど、変更がある時など、出勤者で相談協力して対応できている。全体に周知が必要な内容については把握のしやすい工夫が必要な考える場面もあり今後の課題である。

【南 2 丁目】

年間ユニットイベント(実績)

4 月	お花見昼食会	10 月	ハロウィンパーティー
5 月	ベランダで日光浴・ティータイム	11 月	芋炊き
6 月	手作りおやつ	12 月	クリスマス会・年会
7 月	納涼祭・手持ち花火	1 月	新年会
8 月	かき氷・たらいそうめん	2 月	バレンタイン・チョコレートフォンデュ
9 月	たこ焼きパーティー	3 月	ひな祭り・ひな人形撮影会

基本ケア 食事・排泄	食事が低下傾向の利用者に対しスタッフで協力してケアを実践でき、回復することができた。排泄ケアについては困難ケースによっては 2 人介助を行っていたが、介助方法やかかわり方を見直し 1 人で介助できるようになったケースもみられた。職員個々の知識、技術について基本的なケア方法をしっかり身につけていきたい。
基本ケア 認知症	パーソンセンタードケアの実践をどの入居者に対しても活用し対応できるよう努めていきたい。
イベント企画 及びアクティビティ	イベントについて、体調等から短時間でも参加できるよう工夫することができた。イベントで撮った写真は居室に飾ることができた。外出イベントはまだ実践が不十分のためスタッフで協力して企画準備ができるよう努めていきたい。
ユニット環境 及び衛生管理対策	床を這って移動する利用者のためのスペース確保や整理整頓への配慮が不十分な状況もあり再検討必要である。
スタッフの連携 ・情報共有	情報共有については、その都度しっかり確認しあえた(特に看取りケアなど)しかしスタッフ間の意見や検討必要なことなど、速度感を持った対応ができないこともあり課題が残る。

《総評:介護係長/生活相談係長》

稼働率 92.89% 総延べ入院(外泊)日数 1536 日において目標稼働を大きく下回った。待機者に関して、昨年度と比較し減少している中、33 名の退所において、31 名の入所ができたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、外泊、外出、面会制限を考えて、入所順が回ってきても入所しない意向になる申込書も見受けられた。そうした中、新規申込者においては早々の入所を希望される方も数名おられ、入所判定会を毎月開催することで柔軟な対応をすることができた。今年度じゃ新型コロナウイルス感染症が発生した時期もあったが、そうした状況の中で、一定のルールのもと、面会を継続することが出来た。またイベントや研修なども感染の状況を見ながら実施することができた。

3. II. ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)

3-1 利用状況(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【利用状況】

延べ人数	男	女	計
予防短期入所	31	115	146
短期入所	1177	3523	4700
合計	1208	3638	4846
平均利用者数			

実人数	男	女	計
東温市	17	43	60
松山市	5	9	14
今治市	0	1	1
合計			75

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	16	59	75
要支援 2	15	56	71
要介護 1	22	240	262
2	350	636	986
3	130	1284	1414
4	649	836	1485
5	26	527	553
計	1208	3638	4846
平均要介護度	3.2	3.1	3.1

3.-2 ユニットの取り組み

【北2丁目】

年間ユニットイベント(実績)

4月	お花を囲んで桜餅・和菓子を食べる	10月	ミニ運動会
5月	ガリラヤ外周散歩・しょうぶ湯週間	11月	芋でお菓子作り
6月	あじさいドライブ	12月	クリスマス会・忘年会・ゆず湯
7月	ところてんづくり	1月	新年会・絵馬づくり
8月	観月祭	2月	チョコレートフォンデュ
9月	いもたき	3月	ちらし寿司

基本ケア 食事・排泄	同性介助や羞恥心に配慮し、スタッフ間で声を掛け合いながら実施できた。ケア方法については統一した対応への理解に課題が残るため、根拠を確認しながら統一できるよう努めたい。
基本ケア 認知症	全体的にスピーチロックの言葉が出るスタッフは少ないが、業務に追われるなど、ちょっとした場面に注意が必要である。引続き丁寧な言葉遣いができるよう、職員間で注意喚起に努めていきたい。
イベント企画 及びアクティビティ	毎月、計画通りに実施することができた。朝の体操やレクリエーション、お口の体操の実施不十分な時があり改善していきたい。
ユニット環境 及び衛生管理対策	スタッフ個々で対応にばらつきがあった。
スタッフの連携 ・情報共有	多職種と連携し情報共有を行うことができている。

《総評:介護係長/生活相談係長》

稼働率 66.38%と目標稼働をもきく下回った。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、追加利用を一時中止しながらも休止は行わず、ケアを継続することができたが、追加利用中止や、予定キャンセル依頼を行ったことなど稼働率に大きく影響した。その他、ロングショートステイ利用者の減少も大きく影響している。当施設を含め、特養への入所や、長期入院などが要因である。コロナ禍における傾向としては、不定期利用や定期利用でも連続利用日数が少ない方が多い傾向である。定期的に FAX で各種事業者、病院連携室に空室状況は送信を行うなど引続き空床状況等の情報発信に努めていきたい。

4.Ⅲ. デイサービス（〔介護予防〕通所介護）

4-1 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

【利用状況】稼働日数 309 日

延べ人数	男	女	計
通所介護	1,777	4,131	5,908
総合事業(独自)	306	1,004	1,310
総合事業(A型)	0	0	0
合計	2,083	5,135	7,218

登録者人数	男	女	計
東温市	18	53	71
松山市	1	0	1
合計	19	53	72

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
事業対象	0	0	0
要支援 1	99	138	237
要支援 2	207	866	1,073
要介護 1	684	1,188	1,872
2	548	1,926	2,474
3	262	429	691
4	230	350	580
5	53	238	291
計	1,777	4,131	7,218
平均要介護度	1.9	1.8	1.8

4-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
個別ケアの実施	① 在宅版総合記録シートを活用。情報の共有による個々の体調管理をサポート。ノーリフティングケアや口腔ケア等きめ細やかなサービス提供を目指す。 ■ ミーティングの強化(朝礼・終礼)による情報共有の実施 ■ 在宅版総合記録シート、送迎シートの活用 ■ HOL(happiness of life)の提供を目指して、アクティビティの充実を図り利用者の笑顔を増やす。 ■ 紙芝居劇場やスタッフの趣味特技(ギター・篠笛など)を活かしたアクティビティの実践 ② マシントレーニングや個別機能訓練等を取り組むことにより、利用者の在宅生活継続と身体機能の維持を目指す。 ■ マシントレーニングの実施(利用者約7割実施)。体力測定(利用者約7割実施) ■ 小集団体操(5名以下)の強化 ■ 歩行訓練を楽しく実施していただくために、88箇所スタンプラリー開始

	88箇所スタンプラリーゴールされた方1名。表彰状と景品渡す。 ③ 認知症利用者が役割を持ち、在宅で穏やかに生活できるように寄り添った支援をする。 ■ 奉仕活動(洗濯物干し、洗濯たたみ、メモ紙づくり、シール貼りなど)の実践 ■ 脳トレプリントの工夫(スタンプラリーによる景品提供)による意欲向上
地域との交流	① 地域サロン等へ参加し、地域住民との関係を深める。 ■ コロナの影響で地域サロン参加できず ② 突合や意見交換会などへの参加により、地域の動向を知り、介護・医療連携を図ることができる。 ■ 突合が開催された月はほぼ参加できた。利用者の紹介依頼を合わせて実施。 ■ 意見交換会も中止 ③ ボランティアの受け入れや地域(保育園・学校等)、家族(家族会等)との交流の充実を図る。 ■ ボランティア受入について、感染状況見ながら1件受入(みつばサークルR4.11) ■ 愛隣こども園と近隣の小中学校、幼稚園等の卒業・卒園シーズンにメッセージカードを届けた
職員研修	① ノーリフティングケアの環境整備や勉強会を実施し、利用者や職員の身体的負担軽減を図る ■ デイにリフトはあるが、勉強会や使用には至っていない。 ② 施設内・外研修への参加や他施設への見学を行い、基礎介護力とサービスの質の向上を目指す。 ■ 内部研修について書面開催実施。 デイ向上会議において勉強会実施(毎月) ■ 外部研修について各種オンライン参加。 ③ 業務内容の見直し(記録システムの改善、休暇取得できる体制作り等) ■ インカムにおける職員連携を継続 ■ サービス提供記録の内容を一部見直し実施 ■ 休暇の希望確認をして、希望の日に休めるよう調整できた。
安定運営の確保	① 毎月の実績に関心を持ち、車輻や備品管理等のコスト意識を高める。 ■ 毎月デイ会議内で利用者の動向を共有して、コスト意識に関する周知 ■ 送迎車両へのドライブレコーダーの導入による安全運転意識の向上し、事故減少。車輻の小さな傷や脱輪などあり。安全運転の勉強会実施。 ② 行事予定表とブログの充実を図り、広報・営業活動を通じて新規利用者の獲得を行う。 ■ 行事予定表の工夫(新しいレク実践)、チラシ作成、他事業所への営業活動、施設ブログでの取り組み発信 ■ 居宅介護支援事業所訪問でのPR活動(体験利用者31名、新規利用者32名) ③ 安定した運営のためのコスト意識をもち、新たな加算取得を目指す ■ 介護職員等ベースアップ等支援加算を追加 令和4年10月

4-3 その他の状況

内容	件数	備考
苦情解決件数	1	請求金額の間違いあり
事故報告件数	19	内、受診を伴う市への事故報告1件
ヒヤリハット件数	31	

《総評:通所係長》

今年度、新型コロナウイルス感染症に発症した職員がみられたが、利用者に感染することなく、利用者も利用後発症が判明したケースがあったが、感染が拡大することなく対応することができた。しかし 8 月と 12 月は感染症流行の影響で利用控えや、在宅での待期期間等から、稼働が急激に低下した。入院、入所、死去などの増加も伴い、稼働の回復に時間を要している。利用者獲得に向け定期的なちらし作成を行い、関係先への営業活動を継続していきたい。またブログの更新も週 2～3 回行い、情報発信に努めていきたい。利用したいサービスとなるよう、アクティビティも更に新しい取り組みを考え、楽しんでいただけるよう検討していき

5. IV. ホームヘルプサービス(訪問介護)

5-1 利用者の状況(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【利用状況】

延べ件数	男	女	計
身体介護	177	639	816
身体生活	167	462	629
生活援助	660	1,569	2,229
訪問型独自	296	903	1,199
計	1,300	3,573	4,873

【要介護度別延べ利用人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	0	146	146
要支援 2	296	757	1,053
要介護 1	132	946	1,078
2	617	1,011	1,628
3	73	227	300
4	105	486	591
5	77	0	77
計	1,300	3,573	4,873

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
事業対象	0	0	0
要支援 1	0	27	27
要支援 2	42	96	138
要介護 1	31	76	107
2	29	45	74
3	12	20	32
4	24	12	36
5	4	0	4
計	142	276	418

5.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
在宅生活の維持	① ケアマネジャーやサービス事業者と情報共有を密にしながら利用者の体調管理に努める ② サービス担当者会議へ参加し関係機関との情報交換を図る ③ 利用者だけでなく、家族との交流も深め、問題の把握に努める。
職員研修	① 施設内研修への参加を通し全体の資質の向上を図る。 ② ホームヘルパー会(毎月)を開催しヘルパーの専門性の向上と情報共有を図る ③ 介護ネット(東温市)や、各事業所間の突合へ参加し意見交換や情報収集を図る
安定運営の確保	① ホームヘルパー会での安全なサービス提供や接遇に関する学習を図る ② 介護支援専門員と連携し、広報活動を積極的に行い、新規利用者の獲得を目指す ③ 東温市のみにこだわらず、通勤範囲内で松山市を含めた訪問先を増やしていく。 ④ 働きやすい職場を目指し、長く働いてもらえる環境を作る。

5.-3 その他の状況

内容		備考
苦情解決件数	0	
事故報告件数	0	

《総評:サービス提供責任者》

令和3年度と比較し、居宅からのヘルパーの依頼件数は増えたが、人員不足や時間や収入の制限のあるヘルパーもいたことから依頼を受けることが出来ず、断らなければならない状況があったが、登録ヘルパーの高齢化から人員の見直しを行い常勤を採用したことで新規や追加の依頼受け入れを再開することができ始めた。サービス提供においては、ヘルパー会を開催しヘルパー同士で利用者の様子や支援の方法などを話し合い、情報を共有することで、不安感の払拭やアドバイスをを行うことができ、双方どものスキルアップを目指すことができています。困難ケースは、ヘルパーやケアマネジャー、他事業所と連携を図ることで支援を継続出来ている。しかし、引続き登録ヘルパーが高齢化しており、今後身体介護などの訪問が受けにくくなっていくかもしれないという課題がある。これからも自宅で生活することを望まれている利用者を可能な限り支えていきたい。

6. V. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)

6-1 利用者の状況(令和5年3月31日現在)

【利用状況】 居宅サービス担当 月間人数 予防 15 件 介護 97 件 暫定利用 0 件

利用者	予防		介護	
	男	女	男	女
東温市	3	12	27	70
松山市	0	0	0	0
計	3	12	27	70
	15		97	

【要介護度別利用人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	1	4	5
要支援 2	2	8	10
要介護 1	12	23	35
2	5	24	29
3	8	10	18
4	2	9	11
5	0	4	4
計	30	82	112

6-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
在宅生活の維持	① ニーズに適合した多様なインフォーマルサービスのプランへの位置付け。 ② 家族全体を包括的に支援するマネジメントの実施。 ③ ケアプランチェックにより、プラン内容や表現など、適切な評価が行えるプランニング技術の向上。
資質向上	① 主任介護支援専門員等の取得、専門研修を受講し、最新の個別援助技術を身につける。 ② 在宅での生活の段階から介護や医療の情報提供を家族介護者に提供する。 ③ 新入職員の定着、育成による担当人数の増加並びに困難事例や重度者への対応を円滑に行うことにより事業所への信頼を深め、利用者数の増加を図る。
地域活動への参加	① 災害時に備えたマネジメントを行い、勉強会やシミュレーションを通じて防災への意識を高め、非常事態でも速やかな支援が行える体制づくりを行う。 ② 地域支援活動の推進において情報を発信し、介護予防、地域を支える互助の大切さを伝える。 ③ 協議体並びに家族介護者の支援(おとこ塾等)等を通じ、住民参画の場づくりや交流の場づくりの基盤づくりを目指す。

6-3 その他の状況

内容	件数	備考
苦情解決件数	0	
事故報告件数	0	

《総評：居宅管理者》

感染症予防対策を行いながらも外部での事例検討会や研修など実施できた。オンライン以外でも参加型研修が増加。新規相談制限することなく積極的に困難事例や看取り支援も受け入れできた。介護支援専門員も入退職はあったが4名体制となり、研修やOJTを通じて技能習得を目指し受け入れ件数を増加させたい。新規相談は年間 49 件で、利用終了者は 37 名。老人保健施設入所への入所などにより保留となっているケースもあるが、登録人数は平年並み。地域包括支援センターや病院など営業活動の頻度を増やしている。介護サービス利用適正化に向けた取り組みとしてケアプランチェックを行い、透明性の高いマネジメント業務を今後も遂行したい。

7.VI. 在宅介護支援センター(委託事業)

7-1 活動実績報告

業 務 内 容	実績
東温市地域包括支援センターのプラランチの設置運営及び地域包括支援センター業務への協力	
地域におけるネットワークの構築(会議等の回数:回)	23
パンフレット 作成部数(部)	364
民生児童委員協議会 出席回数(回)	11
市・包括・在支 調整会 出席回数(回)	9
第2層協議体 出席回数(回)	9
第1層協議体 出席回数(回)	1
地域包括ケア推進会議等ワーキンググループ会議 出席回数(回)	1
その他ネットワークの構築に資する会議等 出席回数(回)	2
実態把握	
実態把握の必要な対象者の抽出方法、実態把握の方法 検討回数(回)	1
健康診査後の診察相談 参加回数(回)	4
健康診査後の診察相談 相談実人数(人)	8
サロン訪問 回数(回)	0
個別連絡・訪問等による実態把握(独居高齢者等) 実人数(人)	77
個別連絡・訪問等による実態把握(独居高齢者等) 延べ人数(人)	77
配食事業、緊急通報装置等の利用に係る調査 実人数(人)	6
総合相談支援	
相談支援 延べ人数(人)	466
総合相談 延べ人数(人)	458
権利擁護に関する相談 延べ人数(人)	4
成年後見制度の利用等(金銭管理、契約等手続き関係の支援)に関する相談 延べ人数(人)	0
高齢者虐待に関する相談・支援 実人数(人)	2
高齢者虐待に関する相談・支援 延べ人数(人)	4
消費者被害に関する相談・支援 延べ人数(人)	0
在宅医療・介護連携(在宅で医療と介護の両方を必要とする人)に関する相談 延べ人数(人)	1
在宅における医療・介護連携に関する相談 延べ件数(件)	0
入退院、入退所の相談 延べ件数(件)	1
認知症に関する相談 延べ人数(人)	3

7-2 ふれあい・いきいきサロン参加事業

日 時	サロン等	場 所	人数	内 容
なし				
合 計			0 名	

7-3 地域関連事業

地 域 関 連 事 業	事 業 名	内 容	主 催 者
	介護ネット東温	搜索訓練 メールでの連絡訓練	介護ネット東温
	東温市健康相談	診察相談 東温市地域包括支援センター出張窓口 介護相談及び広報支援	東温市健康推進課
	東温市行方不明声掛け訓練 (中止)	認知症の方への声掛け	東温市地域包括支援センター
	生活支援体制整備事業	第1層・第2層協議体 「助け合い・支えあいどうおん」 地域課題の表出 月1回実施 サロン活動のインタビュー	生活支援コーディネーター

《総評:在支担当》

地域支援活動については、診察相談や健康不明者訪問、実態把握にて、地域の実情を把握することができた。令和4年度は感染症対策を実施しながら、サロン活動やふれあい給食、人的交流の再開が感じられた。生活支援体制整備事業では、住民参画の実情を踏まえた上で地域課題の表出、情報交換を行っている。災害時に役立つ知識の習得として、マイタイムライン、171体験会、東温アプリの活用法など、専門の方からの講話や、自分達が実際に体験しながら意見交換を行うことができた。

8.各部門報告(委員会活動を含む)

8-1 防災・防犯活動

訓練項目	開催日時	参加者	内容
避難訓練 (ガリラヤ荘)	R4年6月12日(日) 10:30~12:00	利用者 90 名 職員 20 名	地域の自主防災監修の上通報訓練及び全体での避難訓練実施。消火器を使用した模擬消火訓練。
消防訓練(東温市防災センター)	**	**	<u>新型コロナ感染症対策により中止</u>
夜間想定通報訓練 (ガリラヤ荘)	R5年3月24日(金) 19:00~20:00	職員 70 名	宿直者、介護職員による通報、避難誘導、消火訓練、夜間緊急時連絡表での非常招集訓練。
東温市水防工法訓練	R4年5月29日(日) 9:00~11:30	職員 2 名	消防団他市内事業所と共に水防工法の基礎の取得の他、水防活動の啓発を行う。
防犯訓練	**	**	<u>新型コロナ感染症対策により中止</u>

8-2 感染症対策

① 衛生管理委員会の開催

令和4年度も新型コロナウイルスまん延に伴い、毎月の運営会及び必要時には臨時開催して、対応策の変更や周知徹底を図った。また、新型コロナウイルス感染によるクラスター発生時には必要に応じて臨時衛生管理委員会を開催し、リアルタイムで状況把握し、その都度対応を検討し実施した。

② 新型コロナウイルス感染症報告

	特養	短期	通所	その他	計
利用者	単独	0	0	4	25
	クラスター	18	3	0	
職員	単独	11	8	5	41
	クラスター	12	0	0	

A. 短期入所クラスター

令和4年10月22日に北2丁目の利用者が軽い鼻水と発熱がありすぐに解熱したが、翌23日に同居の長女の陽性が判明、すぐに利用者の抗原検査を実施し陽性を確認、利用者は軽症のため直ちに退所。陽性利用者が徘徊される方であったため急遽北2丁目をレッドゾーンとして隔離し、全利用者と職員の抗原検査を実施し全員陰性を確認。その後毎日保健所など各関係機関に報告、毎日午前中に全利用者と全職員の抗原検査を実施した。25日に利用者2名陽性確認、嘱託医と連携し毎日の往診と治療薬の投与を行った。以降職員が毎日1~2名ずつ陽性となっていった。初めての経験で対応方法に不安があったため、保健所に相談し29日にクラスター対策班に実地指導していただき対応の改善を図った。保健所の指導を受けながら11月10日に収束。

B. 特養クラスター

令和4年11月28日に中2丁目2番地の入居者が1名発熱・風邪症状なし、29日に採血採尿提出し尿路感染症との診断で抗生剤内服開始。11月30日夜に咳と咽頭痛を訴えた。12月1日、同ユニット職員1名が体調不良を訴え受診し陽性判明、急遽中2丁目をレッドゾーンとして隔離し直ちにユニットの全入居者と全職員の抗原検査を実施、入居者4名と職員2名の陽性確認、うち入居者1名重症のため保健所に報告・相談し、松山赤十字病院に救急搬送し入院となった。翌日から毎日職員1~2名・入居者1~2名の陽性者が発生、感染経路は不明だが12月3日に南2丁目の入居者1名、12月4日に南1丁目の職員1名が陽性となり、南2丁目と南1丁目もレッドゾーン対応となった。毎日保健所に報告相談、嘱託医と連携し毎日の往診と治療薬の投与を行った。重症化した入居者に対しては保健所に相談し県病院や市民病院などを受診し、3名がコロナ病床に入院した。その後もクラスター対応を実施、保健所の指導を受けながら12月21日に収束し。

③ インフルエンザウイルス及びノロウイルス等感染症報告

令和 3 年度も新型コロナウイルス感染症対策を徹底的に行ったため、家族が感染する例は数例みられたが、入居者・職員ともに感染者を出すことはなかった。今後も様々な感染症の動向を注意深く観察しながら、引き続き感染対策を徹底していく。

④ その他

毎日の朝礼や委員会後の配布資料で、スタッフへのお願いの配布で、情報共有を図り、職員が日常的に感染症予防を行う理由を理解したうえで実施できている。R5 年 5/8～新型コロナウイルス感染症の分類が 2 類から 5 類に移行するが、私たちのような高齢者施設で従事する職員はこれまでと同様の感染対策を継続する必要があるため、今後も日常的な感染対策について周知徹底していく。

8.-3 褥瘡対策

① 褥瘡対策委員会の開催(毎月)

例年通りさめ細やかな観察・対策を行い、褥瘡予防に取り組んだ。エアマットが不足していたため令和4年4月に 5 台購入し終末期の入居者や褥瘡ハイリスク者に有効活用できた。令和 5 年も皮膚科 Dr を含む栄養士や機能訓練指導員など、多職種で今まで以上に褥瘡予防に取り組んでいく。

8.-4 権利擁護・苦情解決

① 権利擁護苦情相談委員会の開催(随時)

令和 4 年度苦情件数 0 件

8.-5 身体拘束・高齢者虐待対策

① 身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の開催(毎月)

身体拘束件数 0 件 高齢者虐待件数 0 件

施設指針の周知、コロナウイルス感染予防のため、書面にて毎月不適切ケア等の事例検討を行い、虐待等に繋がらない環境づくりや意識付けをすることができた。総合委員会により、毎月の活動報告を行った。今年度も介護相談員訪問受入れを継続し、利用者の気持ちなど聞き取りしていただき、詳細事項は書面において回覧し周知することができた。安全面での環境づくりをする際や、困難事例の際は安全を保ちつつ、拘束廃止、虐待防止の観点から、利用者様一人一人を尊重した、支援を行った。

8.-6 栄養対策

① 給食委員会の開催(毎月)

栄養ケアマネジメントを実施。利用者の摂食状況や提供方法、献立等について施設長、各事業所職員、多職種、委託業者と検討。「人として最期まで口から食べる」ことに重きをおき、ソフト食・やわらか食を提供。また、便秘対策のため食物繊維の多い食事の提供を継続実施。一人ひとりの身体状態や嗜好を考慮した個別対応を行い、季節感のある食材や行事食を取り入れ、食事イベントを行い、利用者により一層満足していただける食事提供に努めていきたい。

8.-7 事故対策

① 安全委員会の開催(毎月)

毎月の状況報告及びヒヤリハット報告を確認し再発防止の注意喚起につながるよう各担当係とユニットリーダーが検討し総合委員会内においても活動を報告することができた。今後は発生数の多い事例について、特に重大アクシデントに発展しないよう日頃より注意喚起できる活動につとめていきたい。

② 事故状況・ヒヤリハット報告

I 月別発生件数(特養/短期入所別)

月	特養		短期		計	
	状況報告	ヒヤリハット	状況報告	ヒヤリハット	状況報告	ヒヤリハット
4月	14	35	1	6	15	41
5月	11	48	6	10	17	58
6月	6	44	3	5	9	49
7月	12	26	2	6	14	32
8月	5	34	6	2	11	36
9月	9	27	1	1	10	28
10月	10	36	5	2	15	28
11月	10	30	6	1	16	31
12月	27	34	6	1	33	35
1月	18	26	2	3	20	29
2月	14	34	4	3	18	37
3月	19	40	1	0	20	40
総計	155	414	43	40	198	454

II 内容別発生件数

状況報告	計	ヒヤリハット	計
転倒※1	69	他※4	331
転落※2	57	転倒未遂	45
他※3	39	転落未遂	38
服薬ミス(落薬)	15	服薬ミス未遂(落薬)	16
服薬ミス(ほか)	5	服薬ミス未遂(ほか)	8
誤薬	4	異食未遂	8
異食	4	誤薬未遂	3
在宅酸素ミス	3	対人トラブル未遂	3
食事提供ミス	1	誤嚥未遂	1
誤嚥	1	食事提供ミス未遂	1
総計	198	総計	454

※1) 立上りや歩行での転倒

※2) 車椅子、椅子、ベッドなどからのしりもち、座り込みを含む

※3) 軽度の発赤・腫脹、その他傷全般を含む(看護師による処置実施)

原因が特定されない軽症や事故危険があったものを含む

※4) 軽度の発赤・腫脹、その他傷全般を含む(看護師による処置不要)

原因が特定されない軽症や事故危険があったものを含む

Ⅲ 報告レベルの内訳

※ヒヤリハットを含む、すべての状況報告

0	ヒヤリハット報告	454
I	未遂以外(怪我なし) または看護師による処置、バイタル異常	184
II	病院受診(異常なし)	2
III	病院受診(怪我ありまたは再受診必要)	5
IV	病院受診(入院加療必要)	7
V	後遺症が残るあるいは死亡	0
他	精神的苦痛・機械・物品破損等	0
総計		652

Ⅳ 受診及び行政事故報告提出の内訳

事業所	内容	受診	市報告	
特養	転落	4/2	4/6	リクライニング車椅子からベッドへリフト移乗する際シートから臀部が抜け転落。右後頭部を裂傷。
特養	他	4/28	5/2	入浴時、左上腕部の腫脹と内出血を発見し受診。左上腕骨近位端骨折が判明し入院。
特養	転倒	5/9	5/12	居室で転倒を発見。受診の結果、右大腿骨転子部骨折で入院。
短期	転倒	5/19	5/24	居室トイレからベッド間で転倒したと本人より。左前腕から上腕にかけ表皮剥離、左前頭部腫脹あり受診、縫合等治療のため入院
特養	他	5/29	6/2	本人より右腕の痛みの訴えあり、受診の結果、外傷性硬膜下血腫、右上腕骨近位端骨折で入院。
短期	転倒	8/22	8/27	歩行器歩行にてリビングから居室へ戻り扉を開ける時に転倒する。受診の結果、左大腿骨頸部骨折で入院。
短期	転倒	10/24	10/27	居室内で転倒する。痛みの訴えあるも移動動作安定しており利用終了。その後自宅にて腰部の痛み強く受診の結果、腰椎圧迫骨折で入院。
短期	転倒	11/14	11/17	物音があり訪室すると居室洗面台付近で転倒しているところを発見する。後頭部下部に裂傷、右手第5指に剥離。受診の結果、その他のに異常なし。
短期	転倒	11/14	11/16	離床センサー反応あり訪室するベッド付近で転倒しているところを発見。右目じり裂傷、右額腫脹あり、意識あり排泄希望があるためトイレ対応。その後ベッドで休むが、状態確認のため訪室すると声かけに反応なくいびき、無呼吸、舌根沈下みられ救急搬送。受診の結果、急性硬膜下血腫の診断にて入院。
特養	転倒	R5.1/18	R5.1/23	居室より音がし訪室すると、トイレ前の床に座り込み後頭部から出血している。止血後肋骨の痛みある。受診の結果、右肋骨骨折。
特養	転落	R5.2/6	R5.2/7	居室より音がし、訪室すると、車椅子から転落しているところ発見。左眉より微出血。受診の結果、その他の異常はなし。

(考察)

事故発生件数については、アクシデントにつながる可能性のあるヒヤリハットと、状況から軽微なものを含め事故として取り扱うものを整理し、昨年度に引き続き分析方法の見直しを図った。全体数としてヒヤリハット(日々の気づき)報告がでることで大幅に増加しているが、重大アクシデントを防ぐ材料として今後も継続する。

今年度においては、引続き、服薬ミスと誤薬ミス(ともに未遂を含める)を精査した結果、スタッフによるミスは明らかに減少し、未然に防ぐことができていますが、入所者・利用者の吐出しや、自立服用者の未服用(落薬など)が状況として多いことが判明しているため、注意喚起していきたい。また、転倒による骨折事故及び、直接介護中の骨折事故が発生し、居室環境の整備を実施また特に移乗ケアの基本的技術低下がみられたため、ノーリフティングケアを推進するなかでも、基本的知識技術を定期的に確認することが重要であることが分かり、介護職に対するラウンドチェックを実施し改善傾向に向かっている。引続き事故発生時には、速やかに原因を検証し、重度化する入所者・利用者の直接介護における事故を未然に予防できるよう努めていきたい。

9.行事・施設内研修・実習等受入の状況

	全体行事等	施設内研修	実習等受入
4	辞令交付/入職式 【中止】永眠者記念会 おとこ塾	新人職員研修 ケア向上(ノーリフティングケア) トータルケア勉強会【WEB】	
5			松山学院高等学校 5/16-5/27
6	防災総合訓練(南方東自主防災合同)	感染書対策Ⅰ 総合訓練① 感染症対策Ⅱ 食中毒【集合/書面】	河原医療福祉専門学校 6/20-7/15
7	【中止】消防訓練(東温市防災センター)	リスクマネジメントⅠ【集合/書面】	河原医療福祉専門学校-7/15 愛媛大学医学部看護科 河原医療大学校 東温高等学校 7/21-22
8	【中止】里帰り推進 【中止】普通救命救急講習Ⅰ 入居者レントゲン健診 職員ストレスチェック実施	身体拘束虐待防止Ⅰ【集合/書面】	愛媛県立医療技術大学 8/10 川内中学校 8/22-25 聖カタリナ大学 8/2-9/9 松山学院高等学校 8/15-8/17
9	長寿祝い撮影会 【中止】東温市長一日施設長就任・赤ちゃんご贈呈式 【中止】全館ワックスがけ 【中止】防犯訓練		聖カタリナ大学-9/9 松山学院高等学校 9/15-22 愛媛大学医学部 9/20-22
10	【中止】運動会 【中止】秋祭(松瀬川獅子舞保存会施設訪問)(森地区神輿・奉納踊り)	感染症対策Ⅲ 感染症全般 トータルケア勉強会【WEB】	河原医療福祉専門学校 10/3-11-4 愛媛大学医学部看護科 10/4-6 松山学院高等学校 10/25-11-15
11	【中止】ガラヤ荘感謝祭 2022 おとこ塾	感染症対策Ⅳ 総合訓練②	河原医療福祉専門学校-11/4 愛媛大学医学部看護科 11/1-、11/29-
12	【中止】年末里帰り推進 【中止】防災シェイクアウト訓練	感染症対策Ⅳ 総合訓練②	愛媛大学医学部看護科-12/1

	東温市社協共同募金歳末施設訪問 東温市婦人会歳末訪問 クリスマスツリー・クリスマスイルミネーション設営		
1	浴槽(個浴)設置工事	リスクマネジメントⅡ【集合/書面】	
2	浴槽(個浴/特浴)設置工事	身体拘束虐待防止Ⅱ【集合/書面】	聖カタリナ大学 2/6-3/3
3	浴槽(個浴)設置工事 防災総合訓練(水害・避難・夜間想定)	トータルケア勉強会【WEB】 職員会(法令遵守/守秘義務)【集合】 感染症対策Ⅲ(全般)【集合/書面】 看取りⅠ【集合/書面】 看取りⅡ【集合/書面】	聖カタリナ大学-3/3 松山学院高等学校 3/22-28
他	通年		委員会等活動
	毎月・誕生昼食会 おやつ、お茶の時間(毎日) 訪問理容(ブルーライン・たかの子理容) 東温市移動図書館「かぼちゃん号」 訪問販売(移動スーパーとくし丸) 嘱託医 4 名(中川 Dr 内科、八木 Dr 皮膚科、吉田 Dr 精神科、河野 Dr 歯科) 体重測定(特養/短期:毎月)	運営会議/部長課長会議 ・災害対策推進委員会(BCP) ・感染症対策推進委員会(BCP) ・安全対策推進委員会 ・5S 改善推進委員会 総合委員会 ・安全(事故発生防止)委員会 ・衛生管理委員会(新型コロナ対策会議含) ・身体拘束廃止高齢者虐待防止委員会 ・給食委員会 権利擁護・苦情相談委員会 在宅委員会 入所判定委員会 居宅会議(週例会) デイサービス会議 ヘルパー会議(訪問介護) 特養会議(リーダー会)/ユニット会	
	クラブ活動・ボランティア等		
	〔クラブ活動〕 陶芸(隔週水曜日) 習字(月 1 回・第2水) 俳句会(第4水曜日)【書面】 音楽/風船バレー(各ユニット月 1 回) 縫布クラブ(第1火曜)【中止】	縫布ボラ(第 1 火曜日)【中止】 喫茶ベリベリ(特養・デイ隔月)【中止】 ほっこり喫茶(デイ・各週火水木)(法人地域共生) 介護相談員(基本:第1火曜日) 傾聴ボランティア”笑顔に会いたい”(第4金曜日)【中止】 トーンチャイムレインボー(季節毎・第2金曜日)【中止】 オカリナそよ風(季節毎・第3火曜日)【中止】 みつばサークル(不定期)	

※) 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、書面開催または延期・中止あり

10.施設外研修の状況

【施設外研修】

	全体		特養/短期		通所介護		訪問介護	
研修項目 延数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
介護	3	6	9	28	0	0	3	3
看護・保健・医療	0	0	1	7	0	0	0	0
防災・防犯	1	2	0	0	0	0	0	0
人材育成・マネジメント	3	8	4	15	1	1	0	0
専門(スキル向上・資格等)	6	21	6	21	1	2	0	0
行政(介護保険・制度他)	0	0	0	0	0	0	0	0
人事・労務管理・会計	0	0	0	0	0	0	0	0
他	5	7	1	1	2	2	0	0
小計	18	44	21	72	4	5	3	3
	居宅介護支援		合計					
研修項目	件数	人数	件数計	人数計				
介護	1	4	16	41				
看護・保健・医療	0	0	1	7				
防災・防犯	0	0	1	2				
人材育成・マネジメント	0	0	8	24				
専門(スキル向上・資格等)	2	9	15	53				
行政(介護保険・制度他)	0	0	0	0				
人事・労務管理・会計	0	0	0	0				
他	0	0	8	10				
小計	3	13	49	137				

※)新型コロナウイルス感染症対策に伴い、オンライン及び書面開催を含む

11.職員の状況

部門 等	前年度末	令和4年度当初				令和4年度中の状況				常勤換算
		退職	入職	異動	計	入職	異動	退職	計 (年度末)	
特養/短期	87	0	1	-1	88	1	-1	-5	83	68.7
(介護職)	64	0	0	0	64	0	-1	-3	60	50.3
(看護職)	8	0	1	0	9	0	0	0	9	7.3
(その他)	16	0	0	-1	15	1	0	-2	14	11.1
デイサービス	16	-1	0	0	15	0	0	0	15	12.6
訪問介護	9	0	0	0	9	1	0	-1	9	3.8
居宅	5	0	0	0	5	1	0	-1	5	3.2
計	117	-1	1	-1	117	3	-1	-7	112	88.3

※)医師等嘱託契約者の数は上記に含めず【医師4名、歯科衛生士1名、理学療法士1名(特養)、作業療法士2名(デイ)】

12.サービス別 利用状況一覧

特別養護老人ホーム「介護老人福祉施設」 定員 80 名・8 ユニット(1 ユニット定員 10 名)

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	505	496	451	467	481	413	494	489	497	496	448	496	5,733
	4	1,196	1,177	1,163	1,251	1,243	1,291	1,314	1,219	1,179	1,232	1,147	1,296	14,708
	5	589	659	593	548	560	557	511	482	433	455	419	514	6,320
総計	平均介護度	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.98
	延べ利用人数	2,320	2,363	2,237	2,297	2,315	2,291	2,350	2,220	2,140	2,214	2,042	2,337	24,789
	平均利用人数/1日	77.3	76.2	74.6	74.1	74.7	76.4	75.8	74.0	69.0	71.4	72.9	75.4	74.2
	稼働率	96.7%	95.3%	93.2%	92.6%	93.3%	95.5%	94.8%	92.5%	86.3%	89.3%	91.2%	94.2%	92.8%

ショートステイ「(介護予防)短期入所生活介護」 定員 20 名・2 ユニット(1 ユニット定員 10 名)

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	利用実人数	31	33	32	29	28	27	25	24	23	26	32	32	28.5
	1	0	3	6	15	25	72	26	22	21	21	29	22	262
	2	150	146	76	78	102	33	44	34	57	61	102	103	986
	3	149	135	173	201	159	158	129	71	62	61	56	60	1,414
	4	148	166	222	167	115	61	68	95	106	107	114	116	1,485
	5	46	48	42	14	64	33	53	60	57	41	30	65	553
	利用延べ人数計	493	498	519	475	465	357	320	282	303	291	331	366	4,334
	平均介護度	3.18	3.22	3.42	3.18	3.20	2.86	3.24	3.49	3.40	3.30	3.04	3.27	3.23
	平均利用人数/1日	16.4	16.1	17.3	15.3	15.0	11.9	10.3	9.4	9.8	9.4	11.8	11.8	13.0
要支援	利用実人数	1	2	1	3	2	3	2	2	1	3	1	3	2.00
	1	0	0	0	0	5	10	31	3	0	4	0	22	75
	2	4	14	4	10	2	8	3	4	8	6	4	4	71
	利用延べ人数	4	14	4	10	7	18	34	7	8	10	4	26	146
	平均利用人数/1日	0.13	0.45	0.13	0.32	0.23	0.60	1.10	0.23	0.26	0.32	0.14	0.84	0.36
総計	延べ利用人数	497	512	523	485	472	375	354	289	311	301	335	392	4,454
	平均利用人数/1日	16.6	16.5	17.4	15.6	15.2	12.5	11.4	9.6	10.0	9.7	12.0	12.6	13.3
	稼働率	82.8%	82.6%	87.2%	78.2%	76.1%	62.5%	57.1%	48.2%	50.2%	48.5%	59.8%	63.2%	66.7%

デイサービス「(介護予防)通所介護」 定員 35 名

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		26	26	26	26	27	26	26	26	26	25	24	27	311
要介護	利用実人数	54	58	56	49	48	49	49	50	47	46	50	49	50
	1	194	189	182	179	131	148	137	163	116	137	140	145	1,861
	2	214	226	220	208	156	188	221	235	184	204	193	225	2,474
	3	48	63	68	77	88	84	45	46	32	37	46	64	698
	4	43	52	42	34	28	47	73	49	35	57	59	61	580
	5	35	34	31	24	25	24	19	11	16	22	22	32	295
	利用延べ人数	534	564	543	522	428	491	495	504	383	457	460	527	5,381
	平均介護度	2.08	2.14	2.12	2.07	2.21	2.21	2.22	2.03	2.09	2.18	2.20	2.26	2.14
	平均利用人数/1日	20.5	21.7	20.9	20.1	15.9	18.9	19.0	19.4	14.7	18.3	19.2	19.5	19.0
要支援	利用実人数	19	20	20	19	18	18	18	14	16	16	16	15	17.4
	1	21	26	20	22	21	19	20	15	22	23	15	13	237
	2	106	98	112	108	70	98	92	71	60	77	83	98	1073
	利用延べ人数	127	124	132	130	91	117	112	86	82	100	98	111	1199
	平均利用人数/1日	4.9	4.8	5.1	5.0	3.4	4.5	4.3	3.3	3.2	4.0	4.1	4.1	4.22
総計	利用延べ人数	661	688	675	652	519	608	607	590	465	557	558	638	6,580
	平均利用人数/1日	25.4	26.5	26.0	25.1	19.2	23.4	23.3	22.7	17.9	22.3	23.3	23.6	23.2
	稼働率	72.6%	75.6%	74.2%	71.6%	54.9%	66.8%	66.7%	64.8%	51.1%	63.7%	66.4%	67.5%	66.2%

ホームヘルプサービス「(介護予防)訪問介護」

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
要介護	利用実人数	22	23	23	22	20	22	19	19	19	19	17	17	20.5
	利用延べ訪問件数	342	345	344	322	315	302	312	308	295	258	247	279	3,669
	平均介護度	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2
/ 総合事業	利用実人数	15	15	14	15	14	13	0	15	13	13	12	11	12.6
	利用延べ件数	15	15	14	15	14	13	14	15	12	13	12	11	163
障害	実人数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	訪問回数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	実人数	37	38	38	37	34	35	19	34	32	32	29	28	393
移動支援	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	移動支援延べ件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

居宅介護支援

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
介護支援専門員数		4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	3.8
要介護	1	37	38	36	37	39	39	38	38	37	34	35	35	443
	2	29	30	30	31	31	28	30	31	32	30	29	28	359
	3	13	14	17	18	17	16	16	15	14	17	17	18	192
	4	10	12	11	10	8	9	11	10	8	8	9	10	116
	5	4	4	5	5	4	5	5	4	4	4	4	5	53
	介護 利用人数	93	98	99	101	99	97	100	98	95	93	94	96	97.0
	介護 稼働率	88.6%	93.3%	94.3%	96.2%	94.3%	92.4%	95.2%	93.3%	90.5%	88.6%	89.5%	91.4%	92.4%
要支援	1	5	5	4	4	5	5	6	6	8	7	7	5	67
	2	12	12	11	11	13	12	12	11	11	11	11	10	137
	予防 利用人数	17	17	15	15	18	17	18	17	19	18	18	15	17.2
	予防 稼働率	70.8%	70.8%	62.5%	62.5%	75.0%	70.8%	75.0%	70.8%	79.2%	75.0%	75.0%	62.5%	71.59%
総計	介護+予防 利用人数	110	115	114	116	117	114	118	115	114	111	112	111	114.2
	介護+予防 稼働率	85.3%	89.1%	88.4%	89.9%	90.7%	88.4%	91.5%	89.1%	88.4%	86.0%	86.8%	86.0%	88.51%
新規利用人数		3	7	6	5	3	4	5	3	3	5	4	2	50.0

	特別養護老人ホーム 定員80名 【介護老人福祉施設】	ショートステイ 定員20名 【短期入所生活介護】	デイサービス 定員35名 【通所介護】	ホームヘルプサービス 20名/日(目標) 【訪問介護】
目標稼働率	96.6	83.5	79.4	65.0
実績稼働率	92.8	66.7	66.2	67.1
増減	-3.8	-16.8	-13.2	2.1
前年稼働率	96.2	81.7	75.3	65.1
対前年比	-3.4	-15.0	-9.1	2.0

2022 年度(令和 4 年度)

ガリラヤ久米 事業報告

〔事業の種類〕

I. 小規模特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)	定員 29 名
II. ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)	定員 10 名
III. グループホーム(〔介護予防〕認知症対応型共同生活介護)	定員 18 名
IV. 介護付有料老人ホーム(〔介護予防〕特定施設入居者生活介護)	定員 35 名(30 室)
V. デイサービス(地域密着型通所介護)(介護予防通所サービス)	定員 18 名
VII. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)	

1.ガリラヤ久米(全体)

取組事項	取組内容
命と尊厳を守り 安心して生活できる ケア構築	① 専門職として基礎介護力を高め、多職種連携による、重度化ケアに対応した生活支援の提供を行う。 ■ ノーリフティングケア推進への取組み ■ 内部研修(新任・現任研修、看取り介護研修 他)開催 ■ 運営会議の開催による情報の共有、多職種連携〔全 12 回 ※毎月〕 ■ 施設部門会議の開催による、入所部門の情報の共有〔全 12 回 ※毎月〕 ■ 朝礼(全体)の開催〔月～金〕 ② 利用者の人権、プライバシーの保護と共に、虐待防止・身体拘束廃止を徹底する。 (身体拘束 0 件目標) ■ 身体拘束・虐待防止委員会開催〔全 4 回〕 ■ 内部研修(拘束虐待防止)開催〔全 2 回※書面開催〕 ■ 面会スペース設置による家族との面会機会の確保 ③ 多職種協同による、根拠に基づいたケアを実践し、重症化予防に努める。 ■ トータルケア研修会の定期的な開催等による個別ケアに関する知識・技術の向上
やりがいを持ち 働き続けられる 職場づくり	① キャリアパスに関する取り組みを強化し、職員一人一人が生きがいとやりがいをもって働き続けられる職場づくりを行う。 ■ 人事評価制度による適正な評価による働きがいの確保 ■ 定期的な職員面談により相談・指導の実施とフォローアップ体制の確保 ■ リフレッシュ休暇取得推進(7 連休取得または分割取得) ② 福祉の専門職として各事業所・部署間のチームワーク体制を維持し、運営に関する課題改善をより効果的に実践できる環境に努める。 ■ 部課長会議の定期開催(水曜日)による課題整理・対応の実施 ■ 主任・リーダー等の定期的な会議・カンファレンスの開催 ■ 各事業所・ユニット間の人事異動等により適性の環境を保持 ③ スタッフが成長できる内部研修の実施、及び外部研修への参加支援を継続する。 ■ 内部研修の開催〔全 15 回(書面開催 7 回) 参加者計 426 名〕 ■ 外部研修への参加〔全 48 回 参加者計 70 名〕 ■ 職員のメンタルヘルスに関する取組みの実施(ストレスチェック・フォローアップ研修など) ④ 外国人介護従事者の受入及び定着のための体制づくりを進める。

	■ 定期的な面談の実施により不安や課題解決への積極的なかわり ■ 組合担当者との綿密な連携と相談・支援の実施
地域福祉の確立	① 地域共生センター「あいりん」の活動を中心に、地域の福祉拠点をめし、関係機関との連携・地域の福祉ニーズを捉えた取り組みを実施する。 ■ 地域包括支援センターとの連携〔各種会議・研修参加〕 ■ サロン活動（ふりカフェ）の実施 ② 地域行事活動、防災・防犯活動の協力等、学校、保育、他関係機関との連携を継続する。 ■ 介護福祉士養成校・看護師養成校の実習受入 ■ 地域防災総合訓練「シェイクアウトえひめ」参加 ■ ボランティア受入については新型コロナウイルス感染予防のため中止 ③ 在宅生活をトータル的にサポートするため、地域の実情に合わせた活動の実現に向けた情報収集、広報活動を行う。 ■ 地域の情報収集及び広報活動はコロナウイルス感染予防のために未実施 ■ 地域包括支援センターの部会参加により、地域福祉活動への協力を行った。
広報活動の充実	① ホームページ、SNSを活用し、施設の取組み・施設の様子など積極的な情報発信を行う。 ■ SNS（インスタグラム・Facebook）にて定期的な情報発信 ■ 施設広報誌は未発刊 ② イベントの企画・運営、ボランティア活動や関係機関の見学等の受入を継続する。また利用者家族・地域の方々が参加できる企画を検討する。 ■ コロナウイルス感染予防のためイベントの開催中止
安定運営の確保	① 事業運営に関わる財務・組織・管理における課題改善を適切に実践する。 ■ 運営会議での実績確認及び検討〔全12回〕 ■ 部課長会議〔全27回〕での検討 ② 事業所の年間目標数値の達成と、適切なコスト管理に取り組む。 ■ 各種会議による運営状況の共有と課題の確認 ■ デイサービス運営改善に向けた取組 ■ 物価高騰にたいして備品・衛生用品等の見直し ■ 電気料金高騰等に対する節電へ検討と取組み ③ 制度改正、社会状況に合わせた施設運営を見据え、ICTの活用、介護機器（ロボット等）の導入等、基盤整備に取り組む。 ■ 介護ソフト・ICT機器の情報収集・導入に向けた検討の実施
快適な住環境の整備、事業継続体制の確保	① 施設の整備・環境保全に努め、快適な住環境の維持、より良いサービス提供を目指す。 ② 新型コロナウイルス感染症等、感染症予防対策の徹底と、発生時の対応について確認をすすめ、大規模クラスター発生防止に取り組む。 ■ 衛生管理委員会開催〔全11回〕 ■ 内部研修（感染症）開催〔全2回〕 ■ 新型コロナウイルス感染対策会議の開催・職員への感染対策周知文書の配布 ③ 巨大地震による災害等の緊急事態においても、利用者へサービス提供を続けられる体制を維持構築する。 ■ BCP（事業継続計画）の内容の協議検討

1-Ⅱ.新型コロナウイルス感染症対策に関する報告

新型コロナウイルス感染者数(令和4年4月～令和5年3月)

	入所者	介護職員	看護職員	その他職員	合 計
小規模特養	2	8	1	3	14
グループホーム	9	6			15
介護付有料		2			2
デイサービス		1			1
居宅介護支援				1	1
合 計	10	17	1	5	33

① 感染対策 設備・備品

1. 衛生用品、防護具等の対策備品の管理を徹底
2. 不織布マスクを全スタッフに配布
3. フェースシールドの支給と介助時の装着
4. 共用箇所への手指消毒用アルコールの設置

② 感染対策 環境整備

1. 各事業所および各ユニットにオゾン発生装置の設置(R3年度より)
2. 共用部分(手すり・ドアノブ等)の消毒(毎日定時に実施)
3. 定期的な換気

③ 事業所の対応

□入所部門(小規模特別養護老人ホーム・グループホーム・介護付有料老人ホーム)

1. 面会方法の見直し継続 ※県内の感染状況及び施設の対策状況を考慮して実施
 - ・面会スペースでの直接面会
 - ・オンライン面会
 - ・居室面会(看取り対応等)
2. 訪問理美容・訪問マッサージ等の受入見直し継続
3. 実習生の受入見直し継続
4. 行事・イベントの見直し継続

□短期入所(ショートステイ)

1. 受入時の健康状態確認継続 ※必要に応じ抗原検査実施
2. 新規利用・受入期間の調整継続

□通所介護(デイサービス)

1. 受入時の健康状態確認継続 ※必要に応じ抗原検査実施
2. 新規利用・受入期間の調整継続
3. 各ボランティア、実習等の受入見直し継続
4. 行事・イベントの見直し継続

☐ 居宅介護支援

1. 各事業所・地域との連携継続

④ スタッフの対応

☐ 日常生活での行動

1. 県内の感染状況に合わせた行動自粛要請・注意喚起を実施
2. 県外移動及び県外移動者との接触について、事前申告と必要に応じた自宅待機や抗原検査の実施

☐ 体調管理

1. 毎日の健康チェックと出退勤時の検温実施
2. 体調不良時の報告、医療機関受診の徹底
3. 勤務中における体調不良時の抗原検査実施

☐ 施設内移動制限

1. 施設内での移動に関しては最低限とし所属事業所(ユニット)内での業務に制限
2. 会議・委員会活動は最低限とし、必要性を勘案し、参集形式または書面開催にて実施。

☐ 社宅等の利用

1. 職員及び職員同居家族の状況に応じて社宅の使用

2. I.小規模特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

2.-1 入所者の状況(令和5年3月31日現在)

【入所・退所状況】

待機者数(令和5年3月末現在25名)

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
2	8	10	2	9	11

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	7	21	28
平均年齢	79.5	89.1	87.1
最高齢	76	105	-
最年少	56	72	-

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	2	2
4	3	9	12
5	4	10	14
平均	4.6	4.4	4.4

2.-2 医療の状況

【入院状況】

	実人数	延日数
4 月	1	20
5 月	3	37
6 月	4	48
7 月	3	42
8 月	5	93
9 月	1	8
10 月	2	34

	実人数	延日数
11 月	1	50
12 月	0	0
1 月	0	0
2 月	3	26
3 月	2	73
合計	25	431
月平均	2.1	35.9

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	4	4
心疾患	2	2
脳梗塞	2	1
尿路感染	4	2
腸閉塞	2	1
骨折	0	0
食欲不振	1	0
肝機能低下	0	0
腎機能低下	1	1
その他	7	6
合計	23	17

【医療管理状況】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	4	2
在宅酸素療法	0	0
人工肛門	0	0
尿道留置カテーテル	3	1
インシュリン注射	1	0
痰の吸引(常時)	0	0
合計	3	3

※緊急搬送回数 0回 (前年度 1回)

2.3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 「総合記録シート」「介護日誌」「ユニット会議議題書」を活用したケアの実践。 ■ 多職種協同による「状態確認(ダブルチェック)」と「ケアの方法検討(カンファレンス)」の実践 ■ エビデンスに基づいたケアの実施(BPSDの悪化、誤嚥性肺炎、尿路感染等の予防) ■ ノーリフティングケアの取り組み、実践
イベント企画	《全部門》 ■ 感染予防対策を徹底した上でのイベント開催 ■ ブログ、Instagram等で施設活動や生活の様子を発信 ■ 感染状況に応じた面会の実施、地域、家族とのつながり
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備・環境美化推進 ■ 季節感を感じる飾りつけ等の環境づくり
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催(感染対策に配慮した研修) ■ 基礎介護勉強会の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

2.-4 運営推進会議の状況 ※)書面開催

開催日等	内容
第1回 令和4年4月～令和4年5月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第2回 令和4年6月～令和4年7月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第3回 令和4年8月～令和4年9月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第4回 令和4年10月～令和4年11月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第5回 令和4年12月～令和5年3月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等

《総評》

目標稼働率 96.6%に対し 95.4%。総延べ入院(外泊)日数 443 日 平均要介護度 4.5

新規入居者のうち、要介護 4 もしくは 5 の利用者の割合が 90%を占め、重度介護で基礎疾患がある方が多い。体調や要介護度の悪化を予防するため、状態変化の早期発見や丁寧なケアを実施することに努めた。しかし、入院が長期化する傾向もあり、入院日数が増加した形となった。

また、感染状況の拡大に伴い、当事業所でも感染警戒態勢であるイエローゾーンを始め、感染発生対応であるレッドゾーンを 11 月に 2 回行った。うち 1 回は関連の感染者数が 6 名でクラスターとなったが、感染拡大の予防に努め、最初の感染者発生から 11 日でレッドゾーンを解除することができた。

また、感染予防を行いつつ、認知機能や身体機能の低下した方も楽しんでいただけるようなアクティビティ、行事を企画し、楽しんでいただけるよう努めた。

今後も感染症予防の対応を着実に行いつつ、ご利用者の潤いのある暮らしの実現に尽力するとともにご家族、地域とのつながりを意識した取り組みを行っていきたい。

3.Ⅱ.ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)

3.-1 利用状況(令和5年3月31日現在)

【利用状況】

延べ人数	男	女	計
予防短期入所	4	22	26
短期入所	1147	1844	2991
合計	1151	1866	3017
平均利用者数	3.2	5.1	8.3

実人数	男	女	計
石井・浮穴・久谷	1	4	5
小野・久米	6	15	21
桑原・道後	2	4	6
生石・味生	0	1	1
味酒・清水	0	0	0
雄郡・新玉	0	0	0
垣生・余土	0	0	0
東・拓南	0	4	4
三津浜	0	1	1
内子	0	1	1
東温市	0	3	3
西条市	0	1	1
砥部町	0	0	0
合計	9	34	43

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	0	0	0
要支援 2	0	22	22
要介護 1	89	493	582
要介護 2	16	626	642
要介護 3	875	178	1053
要介護 4	141	439	580
要介護 5	30	108	138
平均介護度	3.0	2.5	2.7

《総評》

目標稼働率 85.0%に対し 82.7%。一日の平均利用者 8.2 名

利用開始時のご利用者の健康状態に留意するとともに、安全、安心してサービスをご利用いただけるよう施設内での感染症予防対策に努めた。しかし、令和 4 年 11 月から 12 月にかけて、職員および併設特養からの感染(クラスター)が発生したため、利用受入を縮小せざるを得ない期間があった。拡大予防対策を実施し、ショートステイの利用者の感染症の発生はなかったが、事業継続に課題が残る結果となった。

事業所内の活動では、感染対策を行いつつも、利用者の皆様に季節を感じ楽しんでいただけるように新たなイベントを実施するなど工夫を行った。感染症対策に留意しながら、個別支援の充実や在宅サービスとして、家族、地域に安心していただけるようなサービス提供を目指していきたい。

4.Ⅲ.グループホーム(〔介護予防〕認知症対応型共同生活介護)

4-1 入居者の状況(令和5年3月31日現在)

【入居・退居状況】

待機者数(令和5年3月末現在16名)

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
1	3	4	2	2	4

【年齢構成】

	男	女	全体
入居者数	1	17	18
平均年齢	90	91.1	91
最高齢	90	97	97
最年少	90	72	72

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
1	0	1	1
2	0	6	6
3	0	5	5
4	1	3	4
5	0	2	2
平均	4	2.9	3.0

4-2 医療の状況

【入院状況】

	実人数	延日数		実人数	延日数
4 月	0	0	11 月	1	18
5 月	0	0	12 月	1	18
6 月	0	0	1 月	1	14
7 月	0	0	2 月	1	22
8 月	0	0	3 月	1	17
9 月	0	0	合計	5	89
10 月	0	0	月平均	0.9	10.8

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	2	2
心疾患	0	0
脳梗塞	0	0
腎機能低下	0	0

骨折	1	1
その他	1	3
合計	4	6

※緊急搬送回数 0 回（前年度 0 回）

4.-3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 「総合記録シート」「介護日誌」「ユニット会議議題書」を活用したケアの実践。 ■ シフトマニュアル(オペレーションシート)の作成。平常時の統一した業務内容の明確化を図り、入所者及びユニットの状況変化に応じた体制づくり。 ■ ケアスタッフと看護師との連携による重度化対応。
イベント企画	《全部門》 ■ 感染予防対策を徹底した上でのイベント開催 ■ ブログ、インスタグラム等で施設活動や生活の様子を発信 ■ 感染状況に応じた面会の実施、地域、家族とのつながり
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備・環境美化推進
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催(感染対策に配慮した研修) ■ 基礎介護勉強会の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

4.-4 運営推進会議の状況 ※)書面開催

開催日等	内容
第1回 令和4年4月～令和4年5月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第2回 令和4年6月～令和4年7月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第3回 令和4年8月～令和4年9月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第4回 令和4年10月～令和4年11月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第5回 令和4年12月～令和5年3月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ④ 要望、助言等

《総評》

目標稼働率 96.6%に対し 98.2%。総延べ入院(外泊)日数 89 日で、前年度と比べ入院者数の大幅な減少となった。

開設後より昨年度までは、事業所スタッフの退職者が一人も出ていなかった。今年度は退職者が数名出たものの、業務面では安定して行えている。

昨年と同様に、基本的なケアを丁寧に実践することを意識し、効果的な多職種連携のケアを目指してきた。

入所者の状況については、平均要介護度 3.0((R5.3.31)と、重度化がすすんできており、今年度も看取りケアを 1 名実施した。今後も、重度化対応や看取りについて、適切な対応ができるようスタッフの知識・技術の向上に努めていきたい。平均年齢は 91 歳と高齢であり、健康管理と丁寧なケアの実践を通して、重度化予防に努めた。

新型コロナウイルス感染症について、愛媛県内の発生状況に留意し、感染症対策を実施の上、安心して利用していただけるよう努めた。8 月にグループホーム職員の感染者発生があったものの、施設内感染への感染拡大は防止できた。第8波の感染者が増大した12月から1月にかけて、施設内感染が 2 回発生、事業所内の隔離対策等を実施したものの、2 回ともに 6 名の感染者発生しクラスターとなった。利用者への感染拡大を防止できなかったことは非常に残念である。

イベントについては、新型コロナウイルス感染予防対策の中、新しい形を模索し行った。大規模なイベントや外出は控え、施設内でのイベントや、事業所付近の散歩等を実施した。

今後も感染症対策を続けながら、個別支援の充実や、家族の協力も得られる働きかけに工夫し、その人らしい暮らしの提供を目指したい。

5.IV.介護付有料老人ホーム((介護予防)特定施設入居者生活介護)

5.-1 入居者の状況(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【入居・退居状況】

待機者数(令和 5 年 3 月 31 日現在 単身 19 名 夫婦 2 組 計 23 名)

出身地 保険者	保険者別入居者数			令和 4 年度中の移動状況					
				入居			退居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
松山市	6	21	27	3	9	12	2	5	7
東温市	0	2	2	0	2	2	0	1	1
砥部町	1	2	3	0	0	0	0	0	0
伊予市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西条市	1	1	2	1	1	2	2	0	2
新居浜市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
宇和島市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松前町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福津市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	26	34	4	12	16	4	7	11

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	8	26	34
平均年齢	90	90.5	90.4
最高齢	101	101	101
最年少	73	77	73

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
自立	0	0	0
要支援 1	1	2	3
要支援 2	0	6	6
要介護 1	1	6	7
2	1	8	9
3	3	1	4
4	1	3	4
5	1	0	1
平均	2.67	1.54	1.81

5.-2 医療の状況

【入院状況】

	実人数	延日数
4 月	1	5
5 月	3	35
6 月	6	102
7 月	3	57
8 月	4	53
9 月	3	39
10 月	2	33

	実人数	延日数
11 月	2	23
12 月	1	1
1 月	0	0
2 月	1	27
3 月	2	36
合計	28	411
月平均	2.33	34.25

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	3	7
心疾患	3	5
尿路感染	0	0
骨折	1	4
貧血	0	1
脳出血・脳梗塞	3	0
その他(癌含)	4	8
合計	14	25

【医療管理状況】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	0	0
在宅酸素療法	2	1
人工肛門	1	1
尿道留置カテーテル	1	1
インスリン注射	1	1
痰の吸引(常時)	0	0
合計	5	4

緊急搬送回数 4 回 (前年度 3 回)

5-3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 食事・排泄・口腔のケアに重点をおき、丁寧なケアに努め、誤嚥性肺炎、尿路感染症予防を行った。 ■ BPSD の悪化につながる、身体の問題を見極めながら根拠あるケアを実践した。
イベント企画	《全部門》 ■ イベント開催 4 月(お花見散歩)(お花見弁当)(フラワーアレンジメント) 5 月(母の日お祝い会)(若葉昼食会) 6 月(あじさいドライブ)(父の日お祝い会) 7 月(七夕会)(101 歳お祝会) 8 月(納涼祭) 9 月(お月見団子)(敬老会)(101 歳お祝会) 10 月(運動会) 11 月(映画)(芋炊き) 12 月(忘年会)(クリスマス会) 1 月(初詣)(新年会)(書初) 2 月(節分)(ハレタイン) 3 月(ひな祭り)(ホワイトデー) ■ 体操・散歩(毎日)、ピアノ音楽会(毎週)、誕生会・散歩表彰式・カラオケ(毎月) ■ ボランティア受入(新型コロナ感染拡大予防のため中止)
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備 ■ 大掃除(エアコン・窓・換気扇)6・12 月 ■ 各箇所の消毒、換気
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催(感染対策に配慮した研修) ■ 基礎介護勉強会の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

《総評》

R5 目標稼働率 91%に対し実績 87.7% 総延入院日数 411 日(外泊は除く) 平均要介護度 1.81(R5.3.31)

入居者の高齢化及び重度化に伴い、看取りや重度の方の対応、介護度が軽度の方の精神面のフォローなど、職員は多種多様な技術や知識、観察力、コミュニケーション能力を求められるような状況となっている。今後も健康管理と丁寧なケアを行い多職種が連携することで、日々の変化を早期発見できるように努めていきたい。

新型コロナウイルスの影響で面会や外出行事の制限が続いているが、施設内でも生活の中に生きがいや季節を感じていただけるように行事等を企画し、入居者、ご家族にも安心していただけるような生活支援を今後も目指していきたい。

6. V. デイサービス(地域密着型通所介護)

VI. デイサービス(介護予防通所サービス)

6-1 利用者の状況(令和 5 年 3 月 31 日現在)

【利用状況】稼働日数 310 日

延べ人数	男	女	計
地域密着通所	593	2411	3004
介護予防通所	29	1081	1110
	622	3492	4114
平均利用者数	2.0	11.3	13.3

登録者人数	男	女	計
石井・久谷	0	5(5)	5(5)
小野・久米	2(3)	35(38)	37(41)
桑原・道後	0	1(1)	1(1)
雄郡	0	0	0
東拓南	0	0	0
合計	2(3)	41(44)	43(47)

※)()…中止者を含む

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
事業対象	0	0	0
要支援 1	29	504	533
要支援 2	0	576	576
要介護 1	48	1616	1664
2	11	577	588
3	344	120	464
4	190	99	289
5	0	0	0
平均	3.0	1.2	1.4

6.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
個別ケアの実施	①生活機能や心身機能を把握し低下をもたらす環境や要因の特定及び環境分析を行いながら個別ケアを図る。 ■体力測定を実施し、結果の報告(家族及びケアマネジャー) ■体力測定結果や起居動作の状況に合わせた、マシントレーニング等の見直し ■LIFE の活用 ②HOL(happiness of life)の提供を目指して、レクリエーション等アクティビティの充実を図る。 ■参加型レクリエーション ③7つの基本動作を踏まえた上でのマシントレーニング、レッドコードを含む個別機能訓練を充実させる。 ■利用者の状態・状況に合わせたマシントレーニング等のメニューの設定 ■トレーニング成果の報告(見える化)による継続の働きかけ
地域との交流	①地域と連携し、地域包括ケアの促進を目指す。 ■地域連絡会への参加 ②新型コロナウイルス感染予防を考慮しながら、できる範囲での行事・イベント活動を実施する。また、地域の高齢者に向けた情報発信を行う。 ■レクだよりでの情報発信。
職員研修	①デイサービスにおける専門業務(マシン・レッドコード技能、送迎業務など)について継続研修を行う。

	②施設内・外研修に参加し、基礎介護とサービスの質の向上を目指す。 ■市主催の説明会への参加 ■年間計画に基づく各種研修の開催
安定運営の確保	①長期入院や他サービスとの併用による利用率の状況を把握し、介護支援専門員と連携をとりながら調整を行う。 ② 利用者の満足度高め、利用者の増加、利用回数の増加に繋げ、経営の安定を図る。 ③ 新規登録者の安定獲得を目指すため、定期的に情報を発信し営業活動に取り組む。

6-3 運営推進会議の状況

開催日等	内容
第1回 令和4年4月～令和4年9月報告 意見照会 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第2回 令和4年10月～令和5年3月報告 意見照会 8名	

6-4 その他の状況

内容		備考
苦情解決件数	0件	
事故報告件数	8件	転倒 4件 接触 1件 物損事故 1件 異食 1件 離脱 1件
ヒヤリハット件数	13件	服薬未遂 1件 転倒未遂 1件 マシン設定ミス 6件 車中に物忘れ 1件 バイタル確認ミス 2件 補聴器の確認ミス 1件 入れ歯確認ミス 1件

《総評》

新規利用者獲得、また利用継続のため各事業所への定期的な情報発信、情報共有を積極的に行い、利用体験者及び新規利用者の獲得に取り組んだ。また、新規利用開始後は、利用者の運動機能を把握するために、体力測定を定期的を実施し、意欲向上につながる工夫や、継続してトレーニングできる環境づくりに努めた。

施設での新型コロナウイルスクラスター対応の為、デイサービスの利用を縮小したところ、その後、利用を控える方が多数でた為、稼働率を下げる結果となってしまった。こちらから情報を伝える際、話の仕方、安心して頂けるように配慮をしながら、対応を実施したが、今後も内容について検討する必要がある。また、コロナ禍により、利用者の体力及び筋力の低下、病状悪化など顕著に現れ施設入所や老健入所、入院、ご逝去等、利用中止や利用終了に繋がってしまった。今後もあり得る事案の為、利用者の健康状態の把握、家族との連携を強化し、利用者のフレイル防止が出来るサービスを検討し、提供出来るようにしなくてはならないと実感した。

今後も、利用者の楽しめるサービス、元気につながるサービスの提供に努め、住み慣れた地域で安心して生活を続けていけるようサービスを充実していきたい。

7. VII. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)

7.-1 利用者の状況(令和5年3月31日現在)

【利用状況】 居宅サービス担当月間人数 予防 13 件 介護 54 件

利用者	予防		介護	
	男	女	男	女
小野・久米	4	4	6	27
石井・浮穴・久谷	0	0	2	5
湯築・桑原・道後	1	0	0	4
東・拓南	0	0	0	0
雄郡・新玉	0	1	0	0
味酒・清水	0	1	0	0
生石・味生	0	1	0	0
三津浜	0	0	0	1
垣生	0	0	0	0
東温市	0	1	1	6
松前町	0	0	0	1
砥部町	0	0	0	1
計	5	8	9	45
	13		54	

【要介護度別利用人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	3	5	8
要支援 2	2	3	5
要介護 1	5	20	25
2	2	10	12
3	2	5	7
4	1	6	7
5	0	3	3
計	15	52	67

7.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容の振り返り
在宅生活の維持	① 在宅生活の維持に努め、トータルケアに基づいた支援や事業所と協働に視点を置き取り組むことができた。職員の退職・入職があり、人数確保には至らなかったが次女に増加傾向である。 ② 本人・家族の望む生活の齟齬の改善にもっと視点を置くべきだった。認知症の場合、家族意見を優先してしまう場合もあった。 ③ 外部研修も進んで取り組むことができた。社会資源の取り入れたマネジメントについて今後も検討していきたい。

資質向上	① 事業所内・外の研修に参加し、在宅生活に必要な知識向上を目指すことができた。、医療知識の理解や薬の効果・副作用など不十分な点を向上させたい。 ② 地域資源やサービス事業所の情報収集をもつとする必要がある。令和 5 年度から主任ケアマネの地域資源のメンバーになり今後も深めていく。
地域活動への参加	① コロナウイルス予防の観点から勉強会や研修会等の開催が少なかったが、リモート会議への参加や、ケア会議への事例提供など積極的に参加できた。 ② ふりカフェのメンバーになり地域の理解や関わりをもつことができた。
安定運営の確保	① 職員の退職・入職に伴い人数の減少があったが徐々に増加傾向であり、病院や包括からの依頼もしてもらえるようになっている。 ② 書類のチェック機能はあまりできていないが、職員同士コミュニケーションをとることができ、必要な理由や法令遵守に対する細かい意思疎通ができた。

7-3 その他の状況

内容		備考
苦情解決件数	0 件	
事故報告件数	0 件	

《総評》

4 月、急な職員の欠勤、その後の退職があった。利用人数の低下を極力抑えるため、一人では超過状態で維持した。7 月に 1 名入職し 2 名体制になる。10 月・11 月・12 月に軽度の方の施設入所が重なり、利用人数の落ち込みが見られた。1 月からは順調に利用人数が増えている。以前は、介護の人数が少ない状態であったので予防が超過した状態であったが、徐々に人数バランスは良くなり、小野・久米地区の利用が増えてきた。人数目標、全体で 70 名として取り組んでいる。もう少しで達成できる状態である。

包括支援センターからの依頼や、松山リハビリテーション病院からの相談が増えている。

新規相談、前年度 27 件、今年度は 7 月からの新規受け入れで 30 件あった。

今後も介護支援専門員間でコミュニケーションをとりながら、より良い支援を考えたい。

OK だよりのメンバーとして取材・多職種との関りや、居宅同士のつながりも多くなり、地域性なども徐々に理解が深まっている。

8.各部門報告(委員会活動を含む)

8-1 防災・防犯活動

訓練項目	開催日時	参加者	内容
応急手当 WEB 講習	令和 4 年 8 月 24 日	職員 80 名	e-ラーニングの視聴(1 時間程度)
消防訓練 (消火・通報・避難)	令和 4 年 10 月 25 日 15:00～15:45	100 名	松山市南消防署東部支署職員及び ALSOK 警備員の派遣あり、全員参加にて 1F 厨房出火(火災)を想定した消火・通報・避難訓練を行った。
防災訓練 ・地震訓練(シェイクアウトえひめ)	令和 4 年 12 月 19 日 11:00～11:10	140 名	シェイクアウトえひめに参加、在館者が一斉に安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かないを 1 分間」をとった。 ※水害を想定した避難誘導訓練は、コロナ感染拡大

			防止対応中のため中止した。
夜間火災想定訓練(通報・非常招集)	令和3年12月17日 19:00～19:41	職員50名	夜間火災想定 of 通報及び非常招集訓練を実施した。

8-2 感染症対策

① 衛生管理委員会の開催(1回/月)

② 職員研修の実施

○感染症について

実施月	内 容	参加者	研修内容	備 考
6 月	食中毒	全 職 員 に配布	食中毒の予防について、普段の業務で注意すること	文書開催
1 月	感染症対策勉強会	全職員 に配布	感染症の基本的感染対策※動画「高齢者施設等の新型コロナウイルス感染症対策動画」案内あり	文書開催

○メンタルヘルスについて

実施月	内 容	参加者	内 容	備 考
9 月	ストレスチェック	76 名	全職員に対してストレスチェックを実施	
7 月	新任職員面談	1 名	こころ塾による個別面談	オンライン
7 月	メンタルヘルス研修	2 名	メンタル不調者対応	オンライン
11 月	メンタルヘルス研修	2 名	休職者対応	オンライン
3 月	フォローアップ研修	15 名	ワールドカフェ	オンライン

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の流行が続き、感染の動向や対策については、朝礼、運営会議や衛生管理委員会、各事業所のユニット会にて、引き続き、情報共有・注意喚起を行うことができた。全職員を対象とした感染症勉強会は、文書開催となったが、予定通り実施し感染防止に努めることができた。

メンタルヘルスについて、職員対象のストレスチェックは例年通り実施できた。高ストレス者は76名中13名であり、全体の17.1%であった。前年度は20.3%であり、やや減少したが、3年前に比べるとまだ増加している状況であった。感染予防対策のため、こころ塾主催の研修が延期となっていたが、副主任以上を対象とした「ワールドカフェ」として、3月末に実施できた。研修では、コロナ感染対策中のそれぞれの思いを皆で振り返り、共有することができた。その他、メンタルヘルスについて対応が必要なケースについては、外部委託機関(こころ塾)を活用し、個別に面談の機会を設けるなどして対応した。

③ 感染症報告

<インフルエンザ>

11月8日より利用者、11月15日より施設職員に対するワクチン接種を実施。インフルエンザについては、全国的に前年度よりも罹患が増え、感染拡大が懸念されたが、コロナウイルス感染症対策の継続効果もあり、施設内での感染は認めなかった。

	利用者					職員				
	GH	特養	SS	有料	他	GH	特養	SS	有料	他
A 型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

B 型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※GH(グループホーム) SS(短期入所)

<新型コロナウイルス感染症>

新型コロナウイルス感染症の終わりは見えず、利用者は8月と12月、職員は9月と1月に、それぞれ4回目、5回目のワクチン集団接種を実施した。それでも、秋以降、全国的に感染拡大を認め、11月には特養東で、12月にはグループホーム2番地、1月にはグループホーム1番地で、施設内クラスターが発生。早期の対応・感染対策の徹底により、5～6人までの感染に抑えることができたが、レッドゾーン対応などの感染対策期間は、17～22日間と長期に渡った。令和4年度の施設内の新型コロナウイルス感染者数は、入居者10名、職員23名(合計33名)であった。

<その他>

ノロウイルスなど、施設内での他の感染症の発症は認めなかった。

<まとめ>

新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大が続き、当施設においても、国・県内の感染状況を確認しながら、対応を検討し感染対策を継続してきた。5月8日より、新型コロナウイルス感染症の位置づけは、2類相当から5類に変更される。重症化リスクの高い高齢者が、これからも安心して穏やかに日常生活を続けることができるよう、継続的に感染対策研修を実施し、感染回避行動や感染対策の徹底に努めていきたい。また、各職員が日々のストレスと上手向き合い、モチベーションを維持しながら、心身ともに健康に業務に携わることができるような取り組みも検討していきたい。

8.-3 褥瘡対策

① 褥瘡対策委員会の開催(毎月) ※褥瘡発生者2名

毎月入居者の褥瘡発生予備軍を抽出し対応を検討している。

表皮剥離などステージが軽い時期に早期の対応を行うことで、重症化することなく治癒できている。また、個人の肌質にあった保湿に努めながら、症状改善に至らない場合は皮膚科への相談、受診を行っている。

8.-4 権利擁護・苦情解決

① 権利擁護苦情相談委員会の開催※書面開催

令和3年度苦情件数 0件

※意見箱(玄関) 0件

8.-5 身体拘束・高齢者虐待対策

① 身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の開催(年4回)

身体拘束件数 0件 高齢者虐待件数 0件

毎月チェックリストを用いて、日常のケアの中において、不適切ケアや行動を制限する目的で実施された行為がないかを確認した。また、事業所毎の会議にて、委員会の開催や年2回の研修(2回とも書面開催)にて、身体拘束適正化、高齢者虐待防止の意識づけを行った。施設全体での委員会は年4回開催(内1回は書面開催)し事例検討等行い情報共有を図った。

8.-6 栄養対策

① 給食委員会の開催(書面開催)

残食調査を毎食実施し、残食の多い献立は提供頻度を減らすほか、食べやすいように調理法や味付けに工夫している。また、各事業所からの意見聴取、各要望にも可能な限り対応し、利用者により一層満足していただける食事提供に努めた。

8-7 事故対策

① 安全委員会の開催(年4回)

委員会内においてヒヤリハットや事故の事例検討を行いながら、ケア方法の見直しや環境整備に努めた。入所者(入居者)の状態・状況が事業所によって異なるため、半年ごとに発生した介護事故を集計、分析し検討を行った。それぞれにおいて重点的に注意すべき事故の考察、対策を行うことで事故の発生予防に努めた。今後も事故検討や集計、分析を行い、対策の実施、評価、再検討を行うことで、介護過誤の発生予防に努めたい。

② 事故・ヒヤリハット報告

今年度について、それぞれの集計結果を報告する。なお、事故報告は、ヒヤリハットを除く全ての事故報告を集計している。

I 月別発生件数(事業所別)

月	グループホーム	小規模特養	短期入所	介護付有料	計
4月	3	3	5	10	21
5月	7	12	6	20	45
6月	9	19	1	7	36
7月	8	9	1	11	29
8月	4	16		8	28
9月	5	12	5	14	36
10月	8	8	2	8	26
11月	7	11	1	10	29
12月	10	10	5	11	36
1月	14	12	4	9	39
2月	6	10	8	8	32
3月	10	17	4	13	44
総計	91	42	139	129	401

II 内容別発生件数

事故内容	件数
内出血	122
転倒 ※1	88
服薬ミス	46
その他 ※3	36
転落 ※2	35
剥離	28
裂傷	17
擦過傷	12
誤嚥	10
異食	5
対人トラブル	2
総計	401

※1) 立上りや歩行での転倒

※2) 車椅子、椅子、ベッドなどからのしりもち、座り込みを含む

※3) 原因が特定されない軽症や事故危険があったものを含む

III 報告レベルの内訳

	未遂以外の事故(怪我なし) バイタル異常・看護師の処置	395
II	病院受診(異常なし)	3
III	病院受診(怪我あり)(再受診必要)	1
IV	病院受診(入院加療が必要)	2
V	後遺症が残るあるいは死亡	0
総計		401

「ヒヤリハット件数」

	件数
転倒(未遂)	102
転落(未遂)	71
服薬ミス(未遂)	19
食事提供ミス(未遂)	0
異食(未遂)	11
対人トラブル(未遂)	41
誤嚥(未遂)	12
設備・環境の不具合	9
他	61
総計	326

事業所別	転倒 (未遂)	転落 (未遂)	服薬 (未遂)	食事提供 ミス(未遂)	異食 (未遂)	対人トラブ ル(未遂)	誤嚥 (未遂)
小規模特養	3	14	7	0	0	4	1
ショートステイ	27	8	1	0	2	1	0
グループホーム	22	18	6	0	4	6	0
介護付有料	50	31	5	0	5	30	11
総計	102	71	19	0	11	41	12

事業所別	設備環境 の不具合	他	計
小規模特養	0	20	49
ショートステイ	5	11	55
グループホーム	1	11	68
介護付有料	3	19	154
総計	9	61	326

IV 受診及び市事故報告提出の内訳

事業所	発生日	内容	受診	市報告	受診結果	入院の有無
介護付有料	4/18	転落	4/19	4/22,4/27	第2腰椎圧迫骨折	無
介護付有料	6/9	転倒	6/9	6/10,6/23	左大腿骨転子部骨折	有
短期入所	1/1	転倒	1/1	1/1	左前額部腫脹、皮下出血	
グループホーム	1/18	転倒			左大腿部骨折	入院
短期入所	2/1	転落	2/2	2/3	鼻根部裂傷、腫脹	
特養	3/4	転倒	3/4	3/6,3/10	右腰部打撲、右肩周囲痛	

	受診件数	市報告件数
グループホーム	1	1
小規模特養	1	1
ショートステイ	2	2
介護付有料	2	2
総計	6	6

(考察)

ヒヤリハット研修は前年度と大きく変わらず『326件』の報告があるが、事故報告件数は前年度『585件』から『401件』に大きく減少した。また、市への報告事故(重大事故)も前年度『14件』から『6件』に減少している。ヒヤリハット段階で注意をし、事故や重大事故を一定程度、未然に防ぐことができた。

事故内容を事業所別でみると、特別養護老人ホームでは内出血が半数の割合となっているが、その他の事業所では転倒が最も多くなっている。ヒヤリハットの内訳も転倒・転落未遂を併せると全体の半数の割合となっており、重大事故につながる可能性も最も高い要因となっている。

今後も事故防止委員会での事例検討会および個別事例でのケース検討、全体状況での対応検討を行うことで、事故防止に努めていきたい。

9.行事・施設内研修・実習等受入の状況

	全体行事等	各事業所行事	実習等受入
4	入職式	〔特〕お花見昼食会/花見散歩 〔GH〕フラワーアレンジメント 〔有〕お花見散歩、お花見弁当、フラワーアレンジメント	
5	町内清掃(久米地区) 運営推進会議(書面開催)	〔特〕若葉昼食会/母の日お祝い 〔GH〕おはぎ作り 〔有〕母の日お祝い会、若葉昼食会	
6	職員会 人事考課(夏期) 新型コロナワクチン集団接種(1回目)	〔特〕父の日お祝い/あじさいドライブ 〔GH〕運動会 〔有〕あじさいドライブ、父の日お祝い会	

7	運営推進会議 新型コロナワクチン集団接種(2回目)	[特]七夕飾り作り/スポーツ大会(ボーリング)(パットゴルフ) [GH]おやつ作り [有]七夕会、101歳お祝会	河原医療大学校(看護学科) 愛媛県立東温高等学校(普通科)
8	応急手当 WEB 講習	[特]夏祭り/すいか割り [GH]夏まつり [有]納涼祭	愛媛県立医療技術大学実習 (看護学科)
9	職員会 運営推進会議 消防訓練 入居者レントゲン検査	[特]芋炊き/敬老会 [GH]敬老会 [GH]外部評価 [有]お月見団子、敬老会、101歳お祝会	
10	消防訓練	[特]ミニ運動会/お月見団子の会/秋のお散歩 [GH]]フラワーアレンジメント [有]運動会	
11		[特]クリスマス飾り作り [有]映画、芋炊き [GH]おはぎ作り	
12	職員会 人事考課(冬期) 餅つき 防災訓練(シェイクアウトえひめ) 夜間火災想定訓練 介護情報サービス公表調査 運営推進会議	[特]忘年会/クリスマス会 [GH]干し柿作り [GH]忘年会/クリスマス会 [有]忘年会、クリスマス会	
1		[特]新年会/お正月各種行事/神社参拝(ユニット鳥居)(龍神社) [GH]新年会 [有]初詣、新年会、書初	
2	新型コロナワクチン集団接種(3回目)	[特]豆まき/バレンタイン(アフターヌーンティー)(手作りパフェ) [GH]節分豆まき/バレンタイン手作りおやつ [有]節分、バレンタイン	
3		[特]ひなまつり会/菜の花を愛でよう/カラオケ大会 [GH]ひなまつり/桜ドライブ [有]ひな祭り、ホワイトデー	

他	通年		委員会活動	
	各事業所での誕生日会(昼食会)		運営委員会	
	各事業所でのイベント食(昼食会)		安全(事故防止)委員会	
	おやつ・お茶の時間		衛生管理委員会	
	レクリエーション(散歩・体操・音楽・風船バレーなど)		身体拘束廃止委員会	
	訪問理美容(3か所)		高齢者虐待防止委員会	
	訪問マッサージ(随時)		給食委員会	
	訪問歯科診療(随時)		権利擁護・苦情相談委員会	
	医師の回診 嘱託医2名		入所判定委員会	
	訪問販売(とくし丸、パン)		各事業所スタッフ会議	
ボランティア等				
〔個人:定期〕	〔団体:定期〕	〔個人:随時〕	〔団体:随時〕	
新型コロナウイルス感染予防 の為に中止	新型コロナウイルス感染予防 の為に中止	新型コロナウイルス感染予防 の為に中止	新型コロナウイルス感染予防 の為に中止	

10.施設内、施設外研修の状況

【施設内研修】

	研修名	参加人数		研修名	参加人数
5	新任/現任者研修(身体拘束虐待 防止・リスクマネジメント・感染・苦 情・基礎介護等) 第1回身体拘束虐待防止研修	6名 書面開催	10	バーセルインデックス勉強会	9名
			8	応急手当 WEB 講習	80名
			10	消防訓練(消火・通報・避難)	100名
			12	防災訓練(シェイクアウトえひめ)	140名
6	衛生管理:食中毒 接遇・守秘義務研修	書面開催 18名	12	夜間火災想定訓練(通報・非常招集)	50名
8	第1回リスクマネジメント研修	書面開催	1	感染症研修 第2回身体拘束虐待防止研修	書面開催 書面開催
9	看取り介護研修	書面開催	3	第2回リスクマネジメント研修 法令順守・守秘義務研修	書面開催 23名

【施設外研修】

研修項目	GH		小規模特養/SS		介護付有料	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
介護	1	1	13	17	4	5
看護・保健・医療	0	0	0	0	0	0
防災・防犯	0	0	0	0	0	0
人材育成・マネジメント	1	1	2	6	1	3
専門(スキル向上・資格等)	0	0	5	5	2	2
行政(介護保険・制度他)	0	0	1	1	0	0
財務会計	0	0	3	3	0	0
人事・労務管理	0	0	0	0	0	0
小 計	2	2	24	32	7	10

研修項目	デイサービス		居宅介護支援		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数計	人数計
介護	0	0	0	0	18	23
看護・保健・医療	0	0	0	0	0	0
防災・防犯	0	0	1	2	1	2
人材育成・マネジメント	1	1	0	0	5	11
専門(スキル向上・資格等)	1	1	12	22	20	30
行政(介護保険・制度他)	0	0	0	0	1	1
財務会計	0	0	0	0	3	3
人事・労務管理	0	0	0	0	0	0
小 計	2	2	13	24	48	70

11.職員の状況

部門等	前年度末	令和4年度当初				令和4年度中の状況			令和4年度末	常勤換算
		退職 (3,31付)	入職 (4,1付)	異動 (4,1・5,1付)	職員計	入職	異動	退職		
グループホーム	16	1	0	0	15	3	1	4	15	14.4
特養/短期	36	1	1	1/-1	36	8	1/-2	5	38	33.2
(介護職)	21	1	0	1/-1	20	6	1/-1	3	23	22.4
(看護職)	4	0	0	0	4	1	0	1	4	3.6
(その他)	11	0	1	0	12	1	-1	1	11	7.2
介護付有料	22	0	1	-1	22	0	2/-1	4	19	16.2
(介護職)	16	0	1	-1	16	0	2	3	15	12.8
(看護職)	2	0	0	0	2	0	0	0	2	2
(その他)	4	0	0	0	4	0	-1	1	2	1.4
デイサービス	8	0	0	0	8	1	0	2	7	6.5
居 宅	2	0	0	0	2	1	0	1	2	2
計	84	2	2	1/-2	83	13	4/-3	16	81	72.3

医師等嘱託契約者の数は含めず【医師 2 名、歯科衛生士 1 名、作業療法士 2 名(デイ/特養/介護付有料)】

12.サービス別 利用状況一覧

小規模特別養護老人ホーム			定員29名・3ユニット（ユニット定員10名（1ユニットのみ9名））											
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総計	平均介護度	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.48
	延べ利用人数	832	864	835	854	806	861	867	820	899	872	767	823	10,100
	平均利用人数/1日	27.73	27.87	27.83	27.55	26.00	28.70	27.97	27.33	29.00	28.13	27.39	26.55	27.7
	稼働率	95.6%	96.1%	96.0%	95.0%	89.7%	99.0%	96.4%	94.3%	100.0%	97.0%	94.5%	91.5%	95.4%

ショートステイ		定員10名・1ユニット（ユニット定員10名）												
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	利用実人数	22	22	20	20	19	18	19	18	15	18	17	19	18.9
	利用延べ人数計	278	294	248	275	252	257	279	182	215	237	232	244	2,993
	平均介護度	2.80	2.70	2.70	2.70	2.50	2.40	2.50	2.90	2.60	2.60	3.00	3.40	2.73
	平均利用人数/1日	9.27	9.48	8.27	8.87	8.13	8.57	9.00	6.07	6.94	7.65	8.29	7.87	8.20
要支援	利用実人数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0.42
	利用延べ人数	0	0	0	0	0	7	6	6	3	0	0	2	24
	平均介護度	0	0	0	0	0	0.4	0.4	0.4	0.4	0	0	0.4	0.17
	平均利用人数/1日	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23	0.19	0.20	0.10	0.00	0.00	0.06	0.07
総計	平均介護度	2.70	2.70	2.70	2.70	2.50	2.40	2.40	2.90	2.60	2.60	3.00	3.40	2.72
	延べ利用人数	278	294	248	275	252	264	285	188	218	237	232	246	3,017
	平均利用人数/1日	9.27	9.48	8.27	8.87	8.13	8.80	9.19	6.27	7.03	7.65	8.29	7.94	8.3
	稼働率	92.7%	94.8%	82.7%	88.7%	81.3%	88.0%	91.9%	62.7%	70.3%	76.5%	82.9%	79.4%	82.7%

グループホーム		定員18名・2ユニット（ユニット定員9名）												
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総計	平均介護度	2.80	3.00	3.00	3.00	2.90	2.80	2.70	2.80	2.80	2.80	2.80	2.90	2.86
	延べ利用人数	540	558	540	555	556	526	555	524	542	545	476	534	6,451
	平均利用人数/1日	18.00	18.00	18.00	17.90	17.94	17.53	17.90	17.47	17.48	17.58	17.00	17.23	17.7
	稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	99.6%	97.4%	99.5%	97.0%	97.1%	97.7%	94.4%	95.7%	98.2%

介護付有料老人ホーム		定員35名・30室（うち2人部屋5室）												
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総計	平均介護度	2.00	2.10	2.00	1.90	1.80	1.90	1.90	1.80	1.80	1.90	1.90	1.80	1.90
	延べ利用人数	889	959	858	877	889	837	918	971	1053	1040	926	988	11205
	平均利用人数/1日	29.63	30.94	28.60	28.29	28.68	27.90	29.61	32.37	33.97	33.55	33.07	31.87	30.71
	稼働率	84.7%	88.4%	81.7%	80.8%	81.9%	79.7%	84.6%	92.5%	97.1%	95.9%	94.5%	91.1%	87.7%

デイサービス			利用定員18名											
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		26	26	26	26	27	25	26	26	26	25	24	27	310
要介護	利用実人数	25	27	23	23	24	26	25	25	27	23	24	25	25
	利用延べ人数	257	250	252	244	241	247	260	252	250	244	256	252	3,005
	平均介護度	2.00	2.00	1.90	1.90	1.90	1.80	1.90	1.80	1.70	1.60	1.50	1.50	1.79
	平均利用人数/1日	9.88	9.62	9.69	9.38	8.93	9.88	10.00	9.69	9.62	9.76	10.67	9.33	9.70
要支援	利用実人数	19	19	20	20	18	20	20	17	18	18	17	17	18.6
	利用延べ人数	97	92	104	99	85	92	91	91	95	93	78	92	1109
	平均介護度	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
	平均利用人数/1日	3.73	3.54	4.00	3.81	3.15	3.68	3.50	3.50	3.65	3.72	3.25	3.41	3.58
総計	平均介護度	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.40	1.50	1.40	1.30	1.20	1.30	1.20	1.40
	利用延べ人数	354	342	356	343	326	339	351	343	345	337	334	344	4,114
	平均利用人数/1日	13.62	13.15	13.69	13.19	12.07	13.56	13.50	13.19	13.27	13.48	13.92	12.74	13.28
	稼働率	75.6%	73.1%	76.1%	73.3%	67.1%	75.3%	75.0%	73.3%	73.7%	74.9%	77.3%	70.8%	73.8%

居宅介護支援事業所														
項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
介護支援専門員数		1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2		1.7
要介護	介護 利用人数	43	44	44	44	47	46	46	45	46	49	54	54	46.8
	介護 稼働率	61.4%	62.9%	62.9%	62.9%	67.1%	65.7%	65.7%	64.3%	65.7%	70.0%	77.1%	77.1%	66.9%
要支援	予防 利用人数	17	17	16	15	16	15	15	14	13	12	12	13	14.6
	予防 稼働率	106.3%	106.3%	100.0%	93.8%	100.0%	93.8%	93.8%	87.5%	81.3%	75.0%	75.0%	81.3%	91.15%
総計	介護+予防 利用人数	60	61	60	59	63	61	61	59	59	61	66	67	60.9
	介護+予防 稼働率	69.8%	70.9%	69.8%	68.6%	73.3%	70.9%	70.9%	68.6%	68.6%	70.9%	76.7%	77.9%	71.4%
新規利用人数		1	1	0	0	4	0	0	4	3	2	4	2	1.8
営業訪問先		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6.0